

第1章 みなべ町の現況と課題

1. みなべ町を取り巻く現状

1.1. 広域的な位置づけ

本町は、紀伊半島の南西部、和歌山県の海岸線のほぼ中央に位置しています。日高郡に属し、紀南地域の中心都市である田辺市に隣接しています。生活圏域としては、田辺広域圏と御坊広域圏の中間地域に位置しています。

町の総面積は 120.28km² で、和歌山県全域面積 (4,725km²) の約 2.5% を占めています。

■ 広域的な位置づけ



1.2. 町の沿革

みなべ町は、明治の大合併において、近代的な地方自治制度である市制・町村制を施行し、戸籍や小学校などの基本的な仕事进行处理できるような自治体能力をもたせるために、300～500 戸を標準として町村合併が強制的に進められました。この大合併により、30 あった村々が、南部村、岩代村、上南部村、高城村、清川村に合併されました。

昭和の大合併においては、第二次大戦後の新憲法のもとで、仕事や権限はできるだけ地方自治体に、とりわけ住民に最も身近な基礎自治体である市町村に配分すべきであるという考え方のもと、社会福祉や保健衛生、学校教育や消防などの多くの仕事が市町村でこなせるよう、昭和 28 年に「町村合併促進法」が制定されました。本町では、地域の一体性を実現する意義から南部川流域の 5 町村による合併が検討されていた時期もありましたが、昭和 29 年 8 月に岩代村が南部町に統合され、その後昭和 29 年 12 月には上南部村、高城村、清川村の 3 村が合併され南部川村として発足しています。

そして、平成 16 年 10 月 1 日、南部町と南部川村が合併し、みなべ町が誕生しました。

■町の沿革

1889 年 (明治 22 年)		1897 年 (明治 30 年)		1954 年 (昭和 29 年)		2004 年 (平成 16 年)	
南部村		南部町		南部町		みなべ町	
岩代村							
上南部村				南部川村			
高城村							
清川村							

1.3. 自然的条件

(1) 地勢と気候

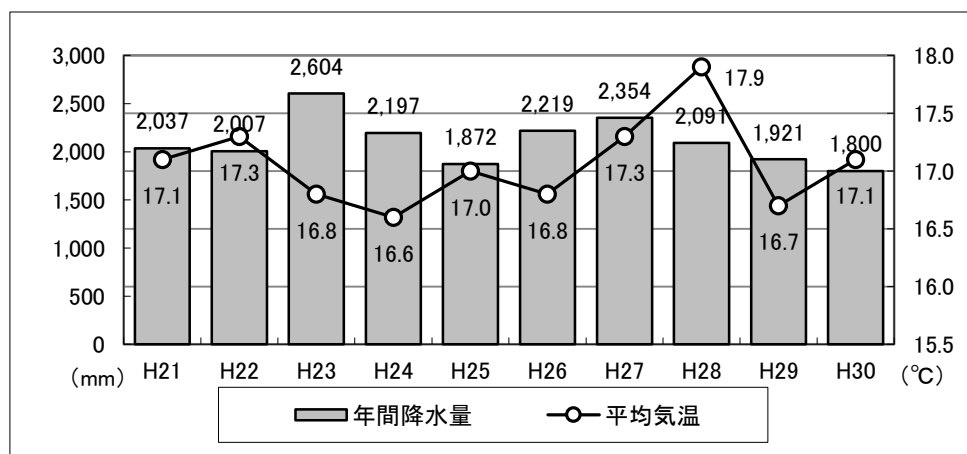
本町は、紀州灘を臨み、南部川流域に広がる丘陵地や低地があり、山林地帯もあるバラエティに富んだ地勢を有しています。丘陵地に広がる梅林は、「南部梅林」とも呼ばれ、日本一のブランドを誇る「南高梅」の栽培が行われています。

山間部は、森林、渓谷などの自然資源に恵まれ、江戸時代からの湯治場とされる「鶴の湯温泉」があります。また、炭の最高級品である「紀州備長炭」の生産が盛んで、備長炭の里としても有名です。

「千里の浜」などからなる海岸部は、風光明媚な景観を誇り、「国民宿舎紀州路みなべ」などの温泉施設があります。海釣りをはじめとした海洋レジャーや漁業も盛んで、「千里の浜」は貴重な自然資源であるアカウミガメの産卵の地として全国的に有名です。

気候を見ると、過去 10 年間の年平均気温が 17.1℃、年間降水量は 2,110mm となっており、温暖で太平洋からの湿った空気の影響をうけて雨が降りやすい多雨地帯となっています。

■気候の概要



資料：気象庁（地点：南紀白浜）

(2) 自然災害

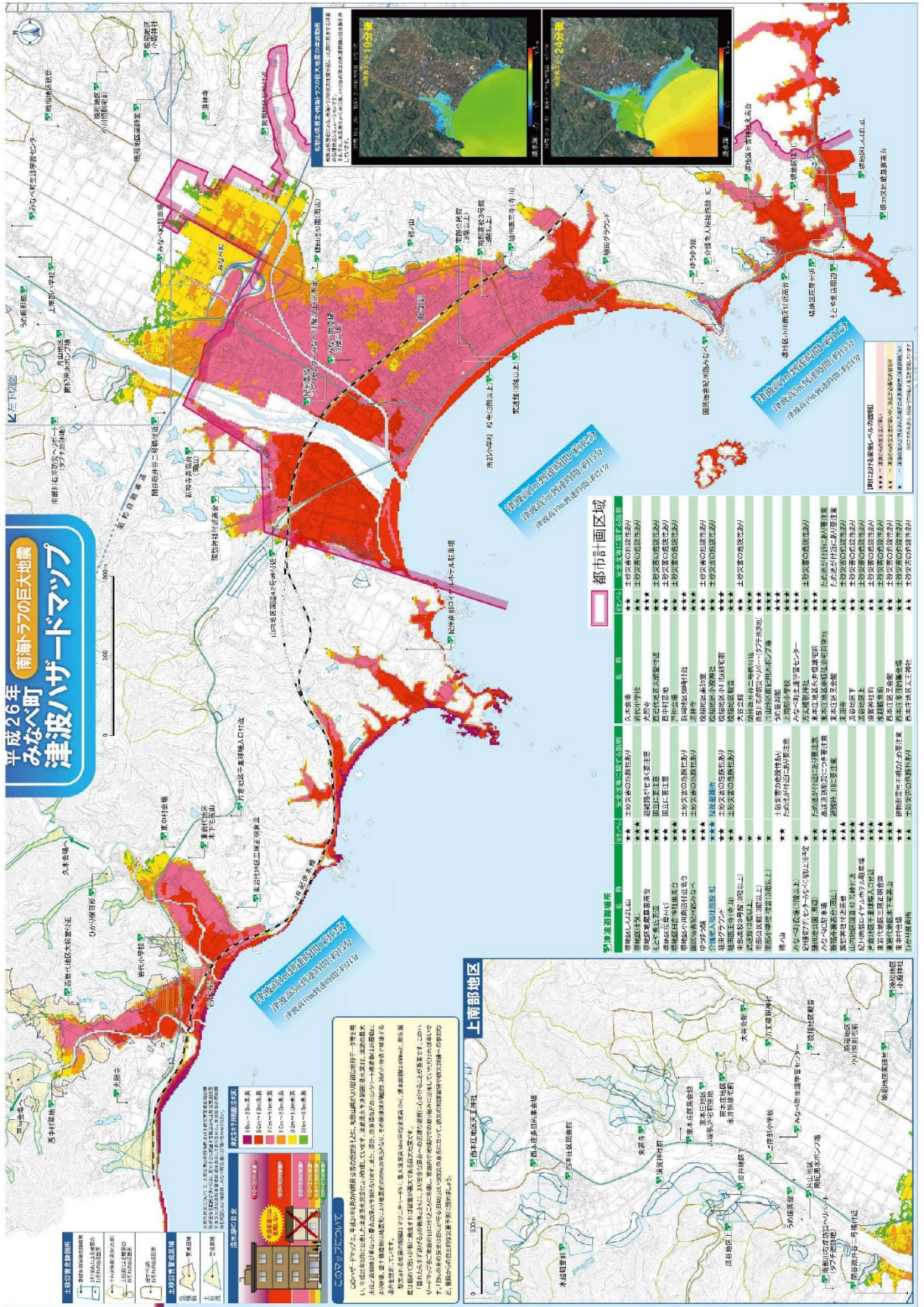
みなべ町内での自然災害の状況を見ると、近年、台風による被害が多く、浸水、斜面崩壊等が発生しています。平成23年の台風12号の大雨では、死者が出るなど大きな被害となりました。

また、南海トラフの巨大地震の発生も予測されており、津波災害への備えも必要となっています。

■近年の主な風水害の概要

発生日月	事項	被害状況
平成16年10月20日	台風23号による高潮	・山内地区では、床下浸水23戸、床上浸水3戸、漁港・海岸保全施設8箇所が被害。
平成23年7月19日	台風6号による高潮、大雨	・山内地区では、床下浸水3戸の被害。
平成23年9月2日～4日	台風12号による大雨	・清川地区では斜面崩壊が発生、裏山の崩壊に巻き込まれ1人が死亡。 ・物的被害（全壊1戸、床上浸水19戸、床下浸水31戸）。
平成24年9月30日	台風17号による強風	・住家1戸の一部が崩壊する被害。

■平成26年度みなべ町津波ハザードマップ（南海トラフの巨大地震）



資料：平成26年度みなべ町津波ハザードマップ（都市計画区域を追記）

1.4. 社会・経済的条件

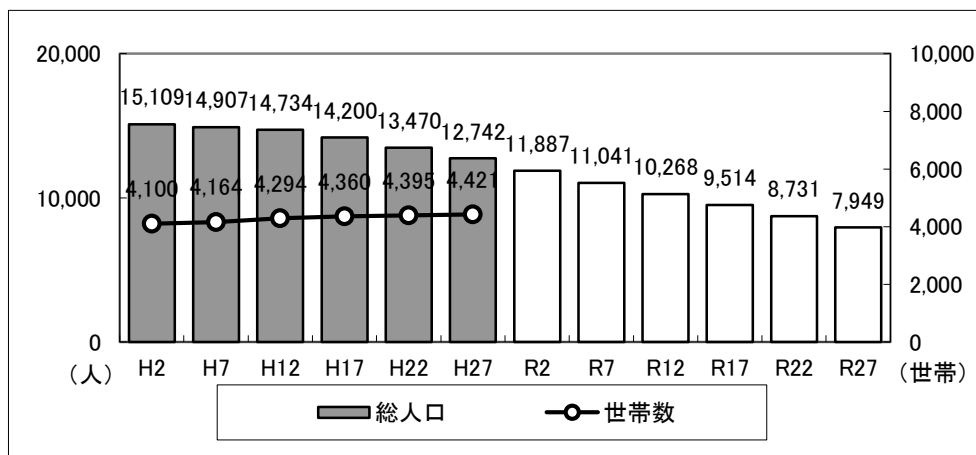
(1) 人口・世帯

① 行政区域（みなべ町全域）の人口

行政区域の人口（みなべ町全域）は、平成27年の国勢調査によると12,742人であり、減少傾向を示しており、今後もこの傾向は続く予測されています。

一方、世帯数は、増加傾向を示しており、1世帯当たり人員は平成27年で2.88人/世帯となっています。

■人口・世帯数の推移（将来予測含む）



資料：国勢調査（～平成27年）

※令和2年以降は、「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」
国立社会保障・人口問題研究所より

② 地域別の人口・世帯数

地域別の人口変化（平成 22 年～平成 27 年）を見ると、多くの地区で人口減少が見られますが、北道②及び東吉田地区（南部地域）、徳蔵地区（上南部地域）、滝及び広野地区（高城地域）、大川地区（清川地域）では、人口増加が見られます。

また、地域別の世帯数変化（平成 22 年～平成 27 年）を見ると、南部地域と上南部地域は、増加傾向が見られますが、岩代地域、高城地域、清川地域では、減少傾向が見られます。

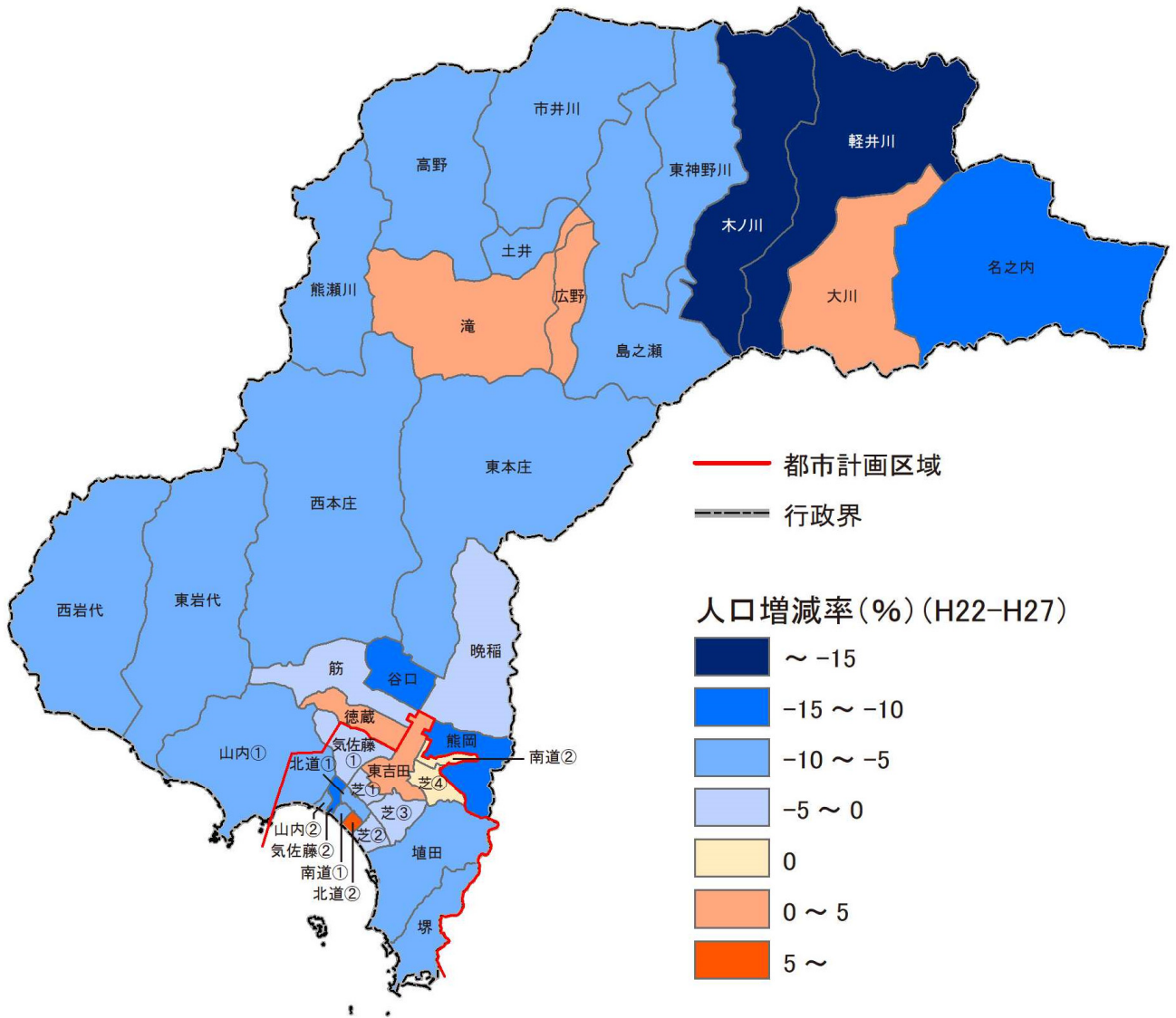
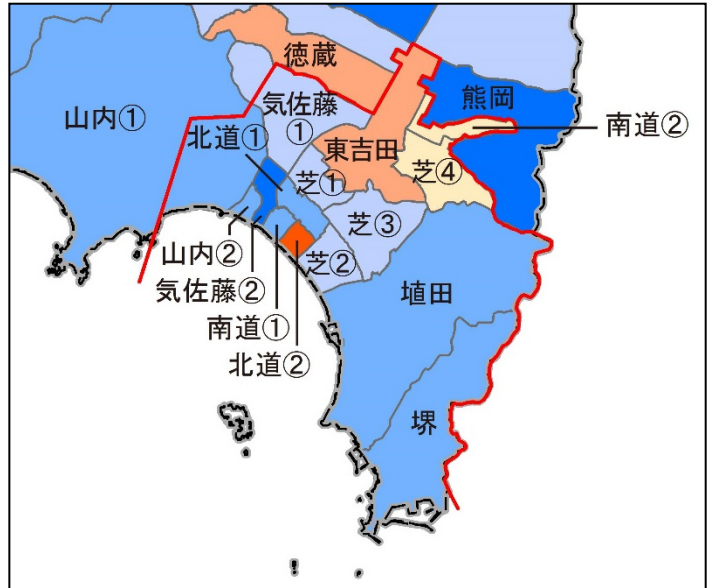
■地域・地区別の人口・世帯数

地域・地区		人口(人)			世帯数(世帯)			
		H22	H27	増減率(%)	H22	H27	増減率(%)	
南部地域	塚	610	564	▲ 7.5	229	217	▲ 5.2	
	埴田	1,419	1,342	▲ 5.4	496	489	▲ 1.4	
	北道	北道①	557	505	▲ 9.3	218	200	▲ 8.3
		北道②	167	184	10.2	79	83	5.1
	南道	南道①	323	291	▲ 9.9	118	111	▲ 5.9
		南道②	0	0	—	0	0	—
	芝	芝①	424	416	▲ 1.9	157	159	1.3
		芝②	514	511	▲ 0.6	202	212	5.0
		芝③	764	739	▲ 3.3	321	334	4.0
		芝④	0	0	—	0	0	—
	東吉田	715	745	4.2	283	301	6.4	
	気佐藤	気佐藤①	277	268	▲ 3.2	89	101	13.5
		気佐藤②	159	137	▲ 13.8	55	51	▲ 7.3
	山内	山内①	628	573	▲ 8.8	202	200	▲ 1.0
山内②		153	139	▲ 9.2	57	57	0.0	
		6,710	6,414	▲ 4.4	2,506	2,515	0.4	
岩代地域	東岩代	573	529	▲ 7.7	161	160	▲ 0.6	
	西岩代	437	403	▲ 7.8	122	121	▲ 0.8	
		1,010	932	▲ 7.7	283	281	▲ 0.7	
上南部地域	谷口	341	305	▲ 10.6	93	98	5.4	
	筋	393	376	▲ 4.3	107	108	0.9	
	徳蔵	247	254	2.8	63	73	15.9	
	熊岡	182	160	▲ 12.1	51	51	0.0	
	晩稲	997	995	▲ 0.2	270	276	2.2	
	東本庄	863	813	▲ 5.8	254	255	0.4	
	西本庄	680	626	▲ 7.9	185	199	7.6	
		3,703	3,529	▲ 4.7	1,023	1,060	3.6	
高城地域	滝	255	256	0.4	65	67	3.1	
	熊瀬川	124	112	▲ 9.7	43	43	0.0	
	高野	281	254	▲ 9.6	80	80	0.0	
	土井	79	72	▲ 8.9	29	26	▲ 10.3	
	市井川	152	142	▲ 6.6	44	43	▲ 2.3	
	広野	63	65	3.2	17	18	5.9	
	島之瀬	103	96	▲ 6.8	34	33	▲ 2.9	
	東神野川	199	188	▲ 5.5	49	47	▲ 4.1	
		1,256	1,185	▲ 5.7	361	357	▲ 1.1	
清川地域	木ノ川	201	155	▲ 22.9	56	48	▲ 14.3	
	軽井川	207	166	▲ 19.8	64	57	▲ 10.9	
	大川	155	161	3.9	45	49	8.9	
	名之内	228	200	▲ 12.3	57	54	▲ 5.3	
		791	682	▲ 13.8	222	208	▲ 6.3	
みなべ町合計		13,470	12,742	▲ 5.4	4,395	4,421	0.6	

資料：国勢調査

■地区別の人口の増減（H22-H27）

(南部中心部拡大)



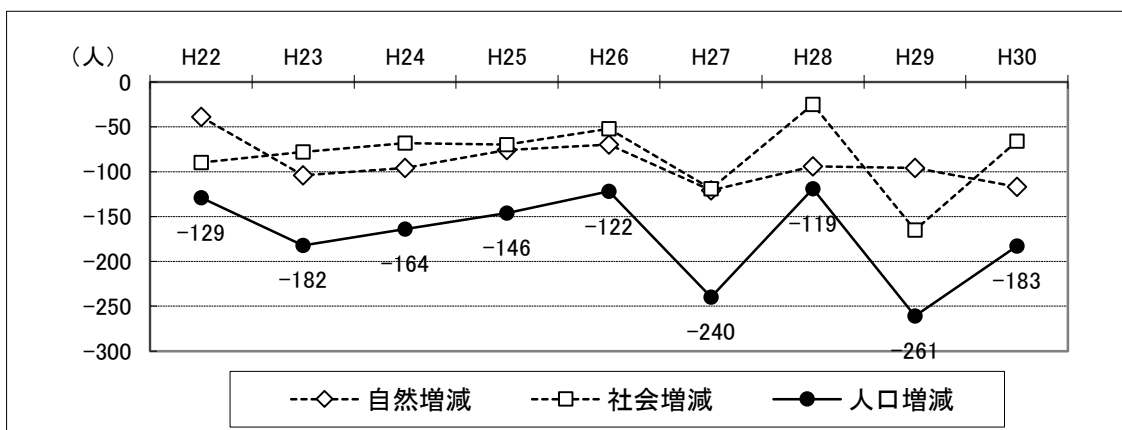
資料：国勢調査

③ 人口動態

本町の自然増減（出生数－死亡者数）は、近年 100 人／年程度の減少で推移しており、社会増減（転入者数－転出者数）は、50～150 人／年程度の減少が見られます。

トータルの人口増減数は、平成 27 年及び平成 29 年で減少幅が大きくなっていますが、概ね 100～200 人／年の減少となっています。

■人口動態の推移



単位：人		平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
自然増減	出生数	118	95	83	97	101	80	90	88	77
	死亡者数	157	199	179	173	171	201	184	184	194
社会増減		-39	-104	-96	-76	-70	-121	-94	-96	-117
社会増減	転入者数	311	290	268	332	306	308	342	260	315
	転出者数	401	368	336	402	358	427	367	425	381
人口増減数		-129	-182	-164	-146	-122	-240	-119	-261	-183
累計		-129	-311	-475	-621	-743	-983	-1,102	-1,363	-1,546

※各年1月～12月の1年間。

資料：住民基本台帳

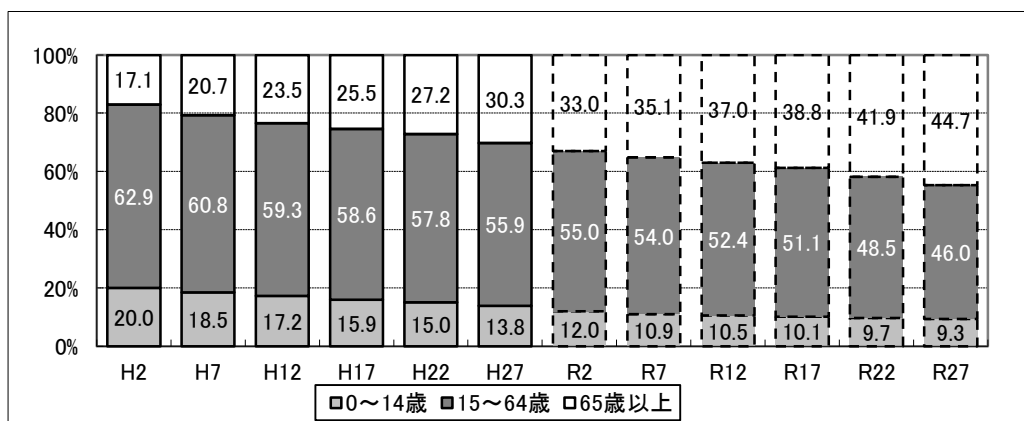
④ 年齢別人口

平成27年の年齢別人口をみると、0～14歳（年少人口）が1,759人（13.8%）、15～64歳（生産年齢人口）が7,124人（55.9%）、65歳以上（老年人口）が3,850人（30.3%）となっています。

経年でみると、65歳以上（老年人口）の割合が増加し、0～14歳（年少人口）及び15～64歳（生産年齢人口）の割合が減少傾向にあります。

今後も少子高齢化の傾向は続くと予測されます。

■年齢別人口割合の推移



※年齢不詳を除く

資料：国勢調査（～平成27年）

※令和2年以降は、「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

国立社会保障・人口問題研究所より

⑤ 通勤・通学

平成 27 年の国勢調査の結果をもとに、就業者・通学者の状況をみると、隣接する田辺市との移動が多く見られます。

■就業・通学者の移動



資料：国勢調査（平成 27 年）

■就業・通学者の状況（15歳以上の就業・通学者）

	常住地による 就業・通学者数 (人)	流出		従業地による 就業・通学者数 (人)	流入		就業・通学者 比率 (従/常) (%)	みなべ町に常住し、 みなべ町で 従業・通学者数 (人)
		就業・通学者数 (人)	流出率 (%)		就業・通学者数 (人)	流入率 (%)		
みなべ町	7,794	1,989	25.5	8,032	2,218	27.6	103.1	5,783

	流出			流入		
	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)
第1位	田辺市	1,276	16.4	田辺市	1,238	15.4
第2位	御坊市	171	2.2	印南町	288	3.6
第3位	白浜町	120	1.5	御坊市	181	2.3
第4位	印南町	115	1.5	上富田町	151	1.9
第5位	上富田町	107	1.4	白浜町	139	1.7

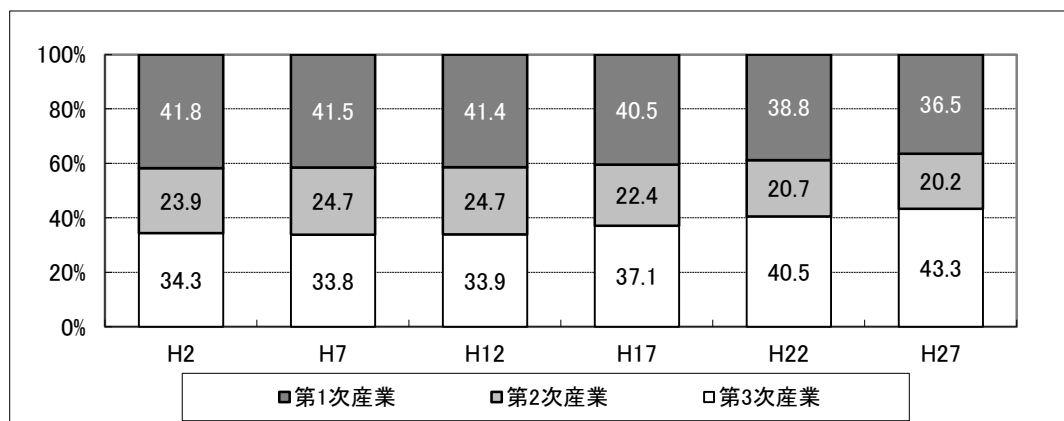
資料：国勢調査(平成27年)

⑥ 就業人口

第3次産業の就業人口は増加傾向にあり、全体に占める割合も高く、平成27年では、43.3%となっています。また、第1次産業及び第2次産業の就業人口は、ともに減少傾向にあります。

就業人口全体としては減少傾向にあり、平成27年では、7,250人となっています。

■産業大別人口



	H2 1990	H7 1995	H12 2000	H17 2005	H22 2010	H27 2015
就業人口 (人)	7,803	8,119	8,085	7,659	7,298	7,250
第1次産業 (人)	3,261	3,366	3,345	3,101	2,834	2,648
第2次産業 (人)	1,868	2,008	2,001	1,713	1,508	1,462
第3次産業 (人)	2,674	2,745	2,739	2,845	2,956	3,140
就業率 (%)	51.6	54.5	54.9	53.9	54.2	56.9

※分類不能を除く

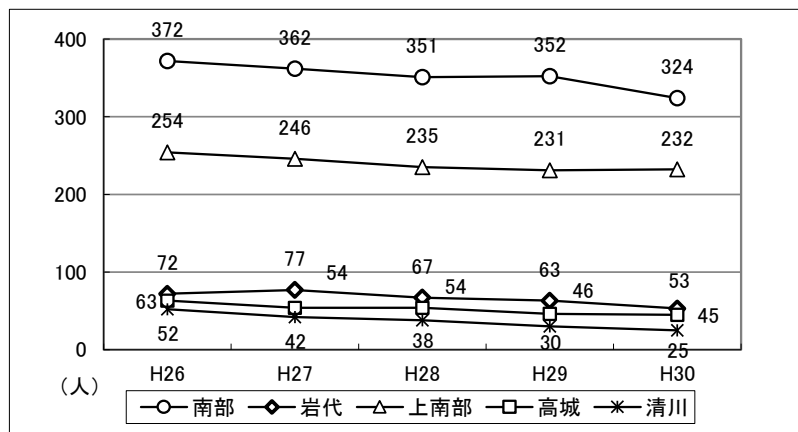
資料: 国勢調査

⑦ 生徒数

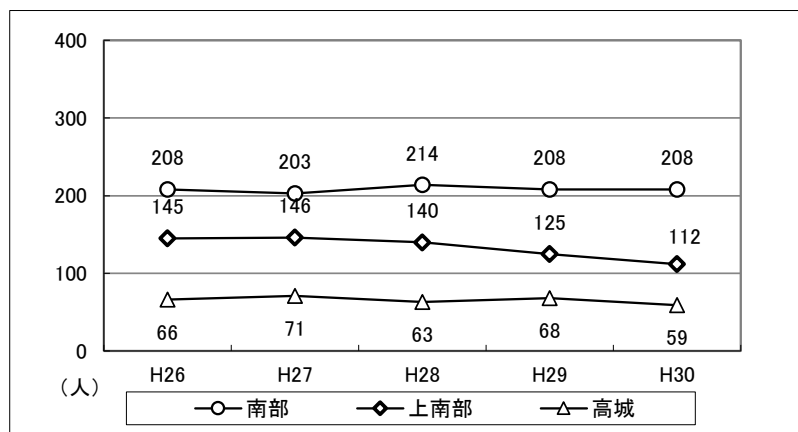
本町内には、小学校が5校あり、生徒数は、横ばいから減少傾向にあります。また、中学校は、本町内に3校あり、南部中学校及び高城中学校の生徒数は、ほぼ横ばいで推移しているのに対して、上南部中学校の生徒数は、近年減少傾向にあります。

■生徒数（小学校、中学校）の推移

小学校



中学校

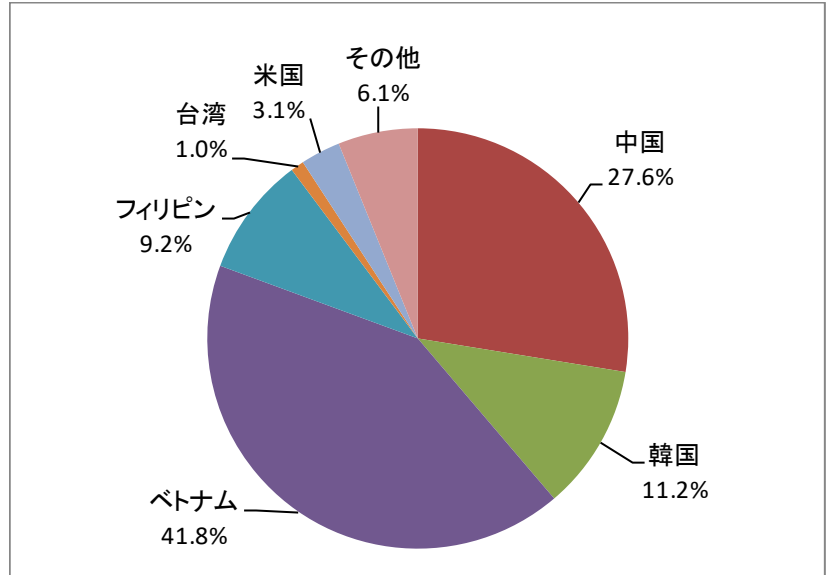


資料：庁内資料

⑧ 外国人人口

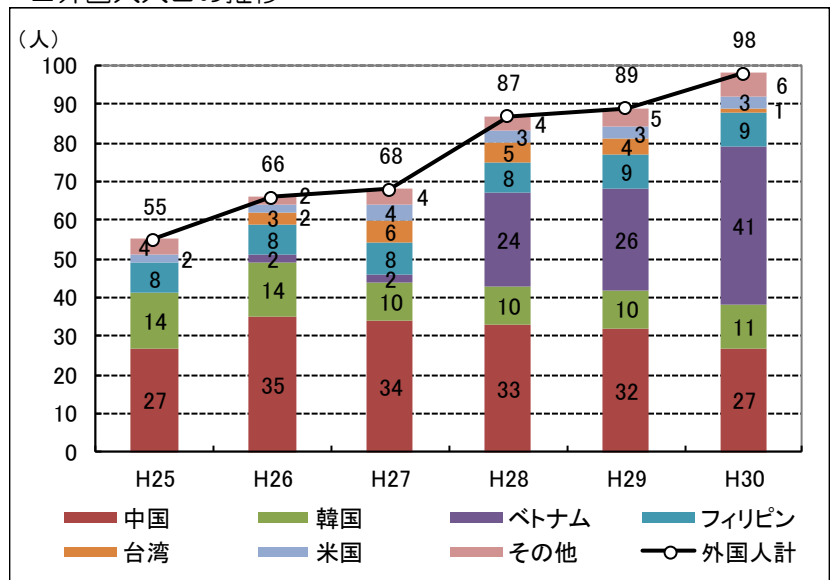
本町内の外国人人口を見ると、増加傾向にあり、平成 30 年では 98 人となっています。国別では、近年、ベトナム人の増加が見られ、外国人人口の約 4 割を占めています。

■外国人人口の国別割合



資料：在留外国人統計（法務省）（平成 30 年）

■外国人人口の推移



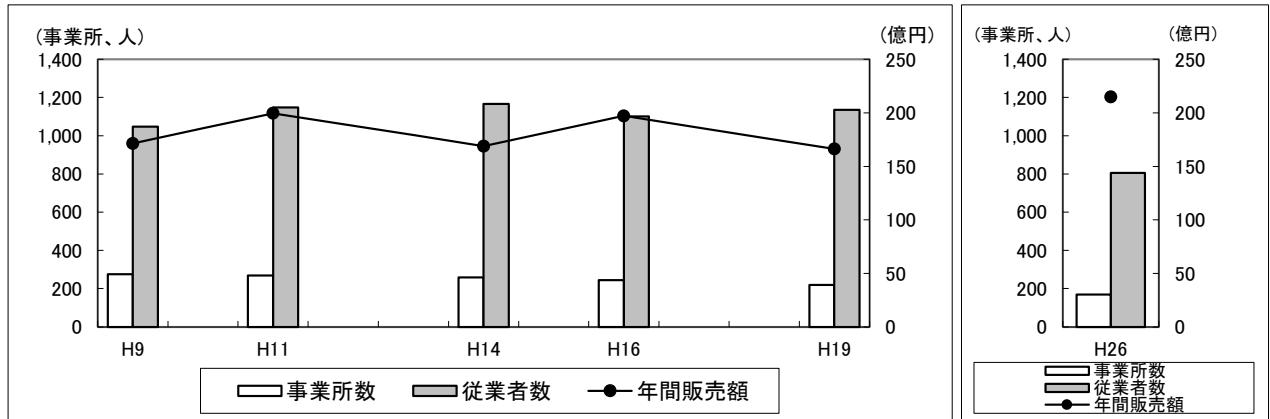
資料：在留外国人統計（法務省）

(2) 産業

① 商業

年間販売額、従業者数、事業所数ともに、大きな変化はなく、横ばい傾向にあります。また、店舗面積が1,000㎡以上の大型店の出店状況は、オークワみなべ店の1件のみとなっています。

■年間販売額、従業者数、事業所数の推移



単位	平成9年			平成11年			平成14年			平成16年			平成19年			平成26年		
	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	年間販売額 (億円)	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	年間販売額 (億円)	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	年間販売額 (億円)	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	年間販売額 (億円)	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	年間販売額 (億円)	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	年間販売額 (億円)
みなべ町	275	1,047	171	269	1,148	200	258	1,167	169	244	1,101	197	219	1,136	166	170	805	215

※商業統計調査と経済センサスは、調査対象、集計対象等が異なるため、平成26年は参考値。

資料：商業統計調査(平成9年～平成19年)、経済センサス(平成26年)

■大型店(店舗面積1,000㎡以上)の出店状況

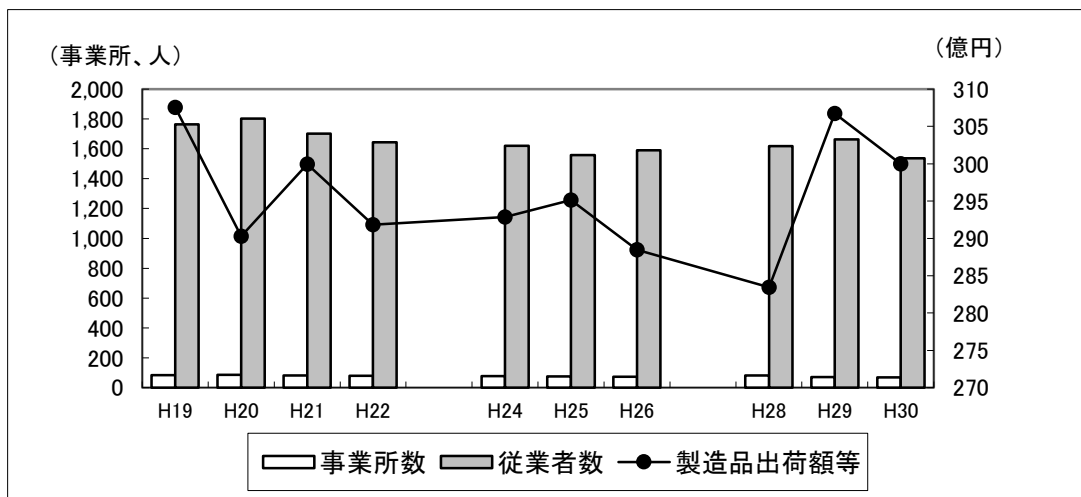
名称	店舗面積(㎡)	開設年	業態	所在
オークワみなべ店	1,382	1999.10	食品スーパー	みなべ町芝227-1

資料：東洋経済新報社『全国大型小売店総覧2019』

② 工業

事業所数、従業者数は、ほぼ横ばい傾向を示しています。また、製造品出荷額等は、平成19年より減少傾向にありましたが、平成29年で増加に転じています。

■事業所数、従業者数、製造品出荷額等の推移



単位	平成19年			平成20年			平成21年			平成22年			平成24年		
	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (億円)	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (億円)	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (億円)	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (億円)	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (億円)
みなべ町	84	1,763	308	87	1,803	290	82	1,701	300	79	1,644	292	77	1,619	293
単位	平成25年			平成26年			平成28年			平成29年			平成30年		
	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (億円)	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (億円)	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (億円)	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (億円)	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (億円)
みなべ町	75	1,558	295	73	1,589	288	81	1,618	283	72	1,663	307	68	1,537	300

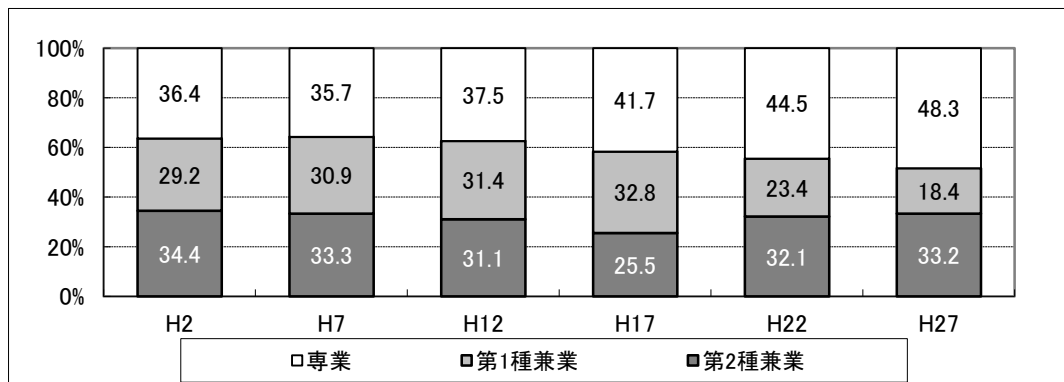
※平成23,27年は調査なし

資料:工業統計調査

③ 農業

農家数全体及び農業就業人口は、減少傾向にあります。農家数の内訳を見ると、専業が約5割、第1種兼業が2割弱、第2種兼業が3割強となっています。

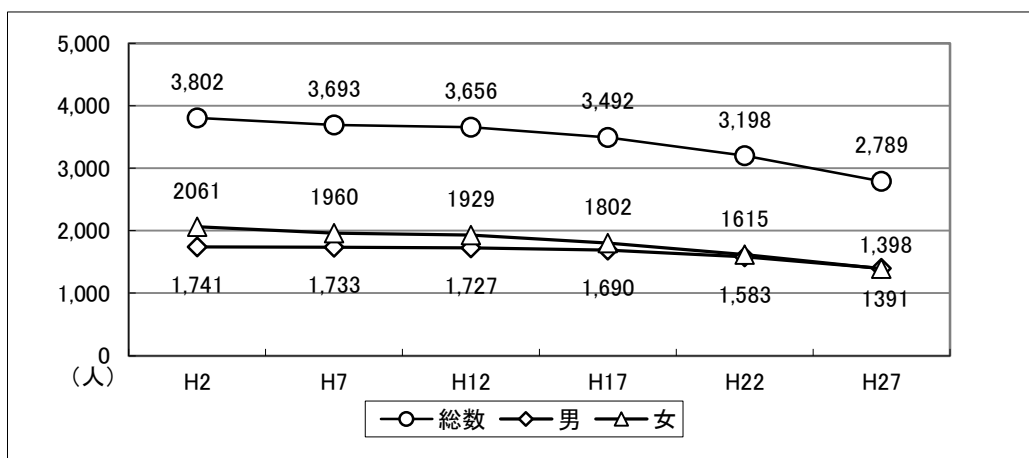
■農家数の推移



	単位	H2 1990	H7 1995	H12 2000	H17 2005	H22 2010	H27 2015
農家数	(戸)	1,721	1,690	1,548	1,486	1,417	1,301
専業	(戸)	627	604	581	619	631	629
第1種兼業	(戸)	502	523	486	488	331	240
第2種兼業	(戸)	592	563	481	379	455	432

資料:農林業センサス

■農業就業人口の推移



	単位	H2 1990	H7 1995	H12 2000	H17 2005	H22 2010	H27 2015
総数	(人)	3,802	3,693	3,656	3,492	3,198	2,789
男性	(人)	1,741	1,733	1,727	1,690	1,583	1,398
女性	(人)	2,061	1,960	1,929	1,802	1,615	1,391

※農業従事者のうち、主に自営農業に従事した世帯員数

資料:農林業センサス

④ 水産業

水産業を営む戸数は、全体で 92 戸となっており、経営組織別では、個人が 85 戸、共同経営が 7 戸となっており、個人のうち、専業兼業別では、専業が 7 戸、兼業が 78 戸となっています。

■ 漁業経営組織・専業兼業別戸数

総数	経営組織別		専業兼業別(個人のうち)		
	個人	共同経営	専業	兼業	
				漁業が主	漁業が従
92	85	7	7	52	26

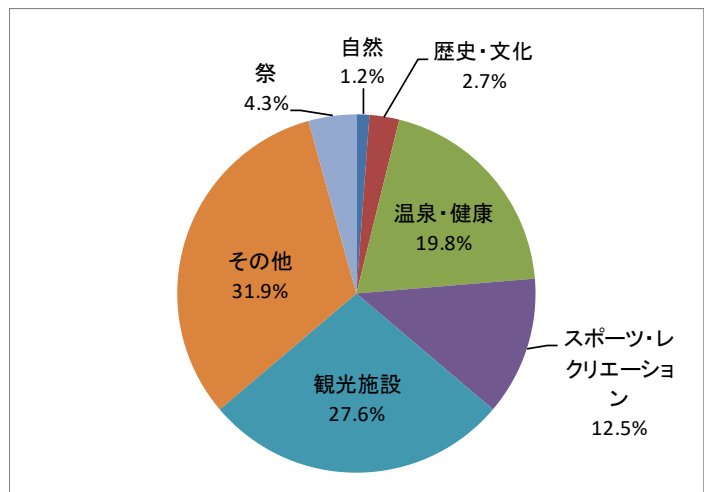
単位:戸

資料:漁業センサス(平成25年11月1日現在)

⑤ 観光

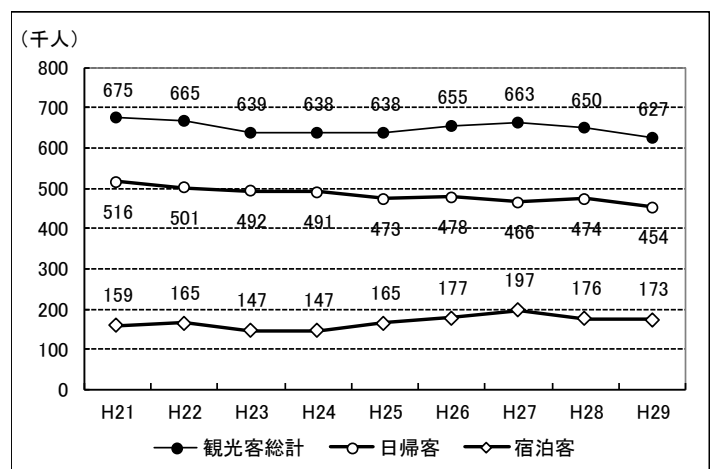
目的別の観光客数を見ると、「その他」を除くと最も多いのは、「観光施設」で次いで「温泉・健康」となっています。年間観光客数は、60 万～70 万人程度で推移しており、宿泊客より日帰客が多くなっています。

■ 観光客数の状況



資料：和歌山県観光客動態調査報告書（平成 29 年）

■ 日帰・宿泊別観光客数の推移



資料：和歌山県観光客動態調査報告書

(3) 交通

① 道路

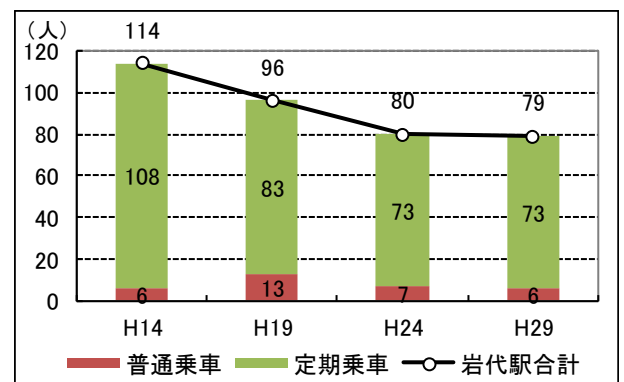
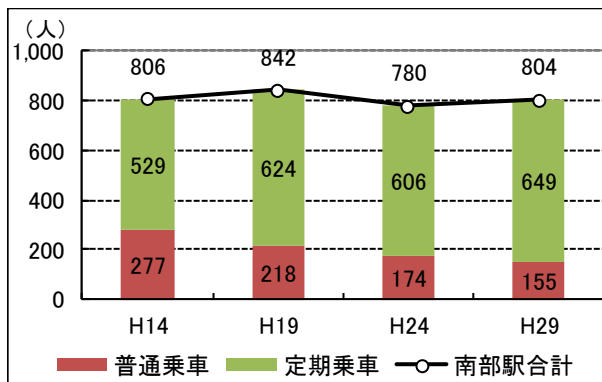
本町の道路網は、大きく分けると太平洋に面する海岸部と、紀伊山脈に連なる山間部で構成されています。高速道路は阪和自動車道が、国道は国道42号、国道424号が整備されており、県道は8路線が開通しています。

それらの道路を軸として、町道や農林道の整備を進めています。

② 公共交通

本町内には、JR南部駅とJR岩代駅の2つの駅があり、住民等に利用されています。1日当たり乗車人員の推移を見ると、JR南部駅は普通乗車数が減少し、定期乗車数が増加しており、全体としては、ほぼ一定で推移しています。一方、JR岩代駅は普通乗車数、定期乗車数ともに減少傾向にあります。

■駅ごとの1日当たり乗車人員の推移

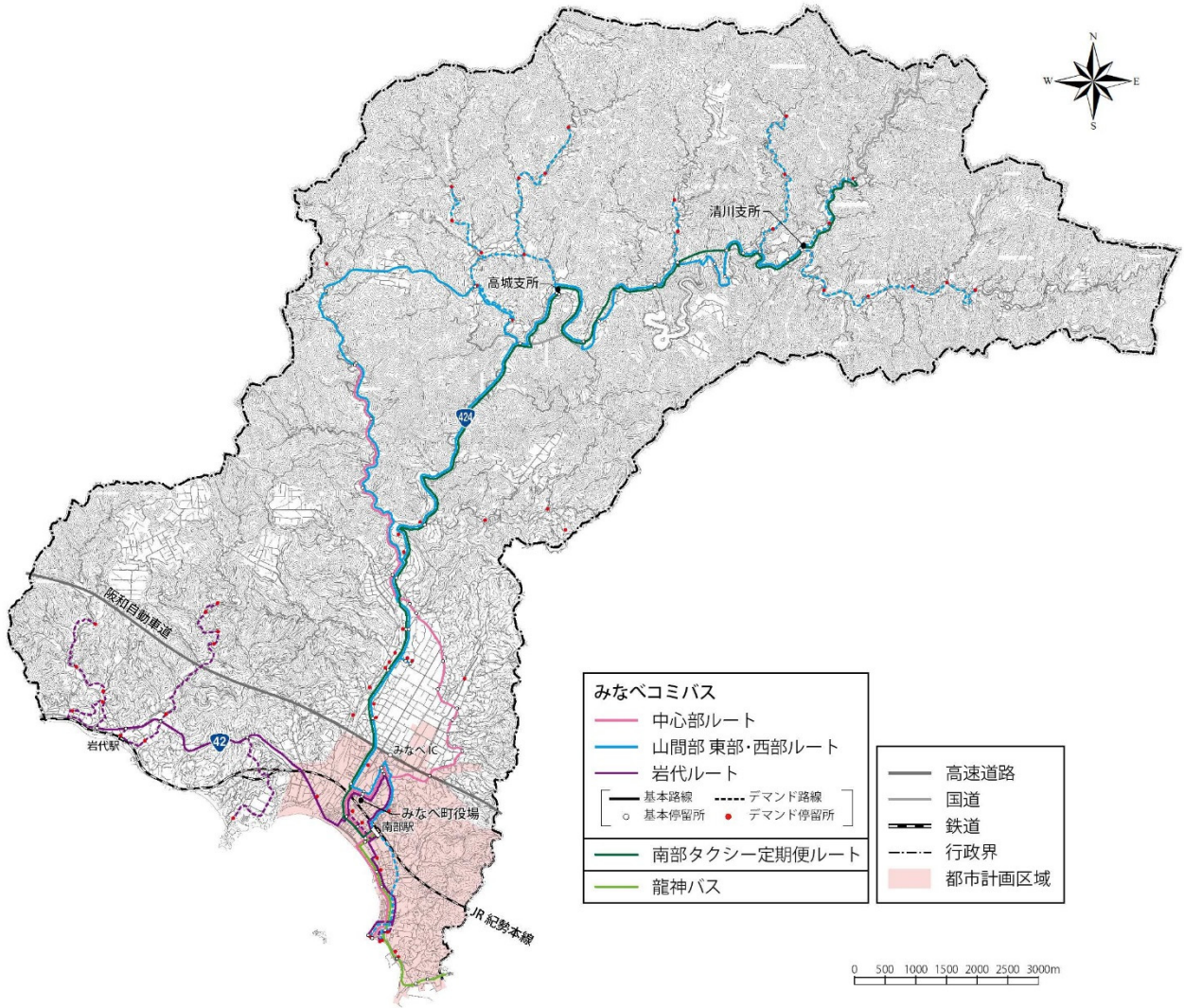


単位:人	平成14年	平成19年	平成24年	平成29年	増減率 (H14-29)
南部駅	806	842	780	804	-0.5
普通乗車	277	218	174	155	-30.2
定期乗車	529	624	606	649	29.7
岩代駅	114	96	80	79	-8.7
普通乗車	6	13	7	6	0.0
定期乗車	108	83	73	73	-8.7

※年度

資料:和歌山県統計年鑑

■公共交通の状況図



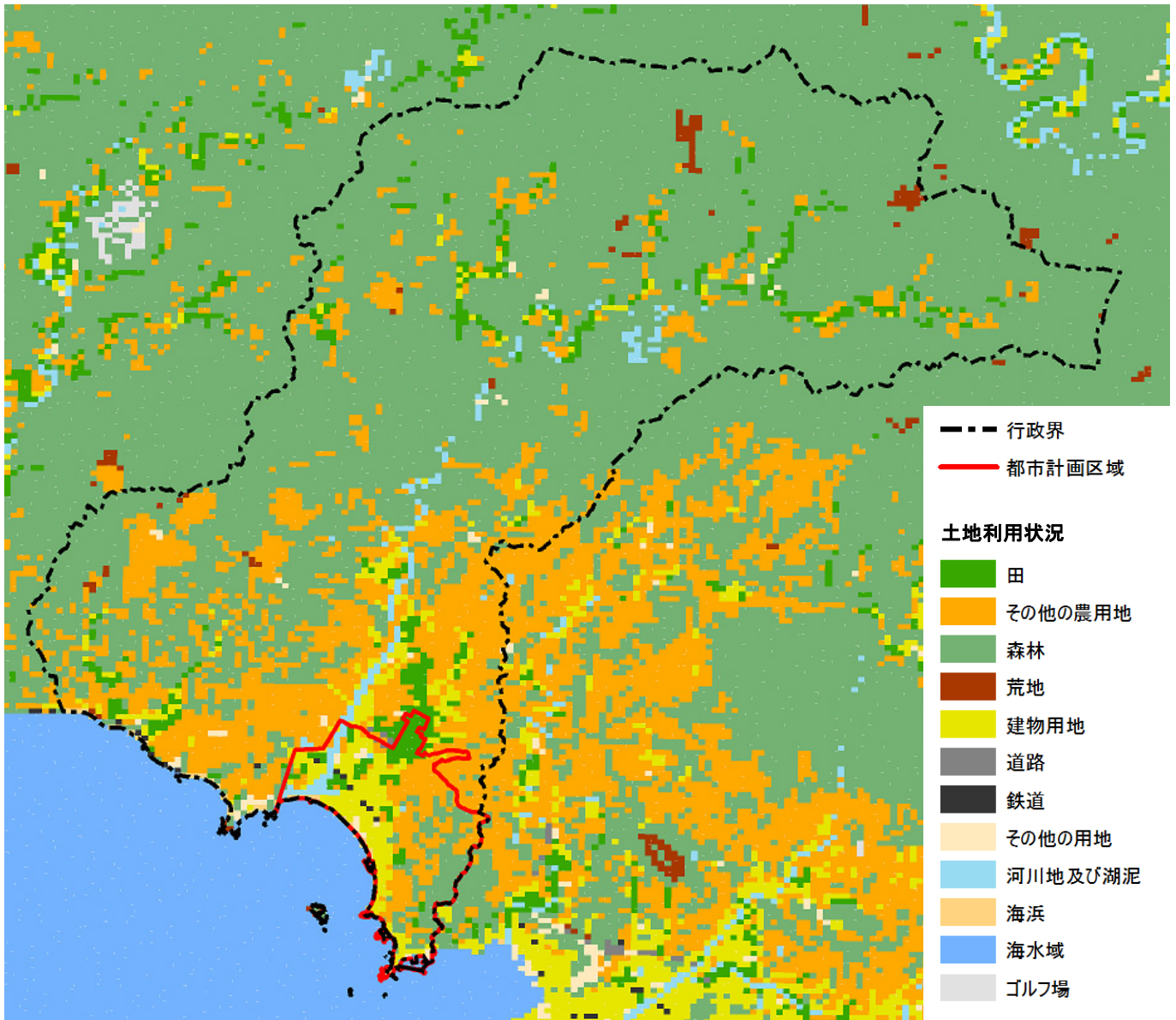
資料：みなべ町ホームページ

(4) 土地利用

① 土地利用状況

土地利用の状況を見ると、南部川の河口部周辺に、建物用地が多く見られます。その周辺や丘陵部には、その他の農用地（畑や果樹園などの農地）が多く見られ、南部川の上流部に向かうにつれて、森林が多く見られます。

■土地利用状況（平成 28 年）



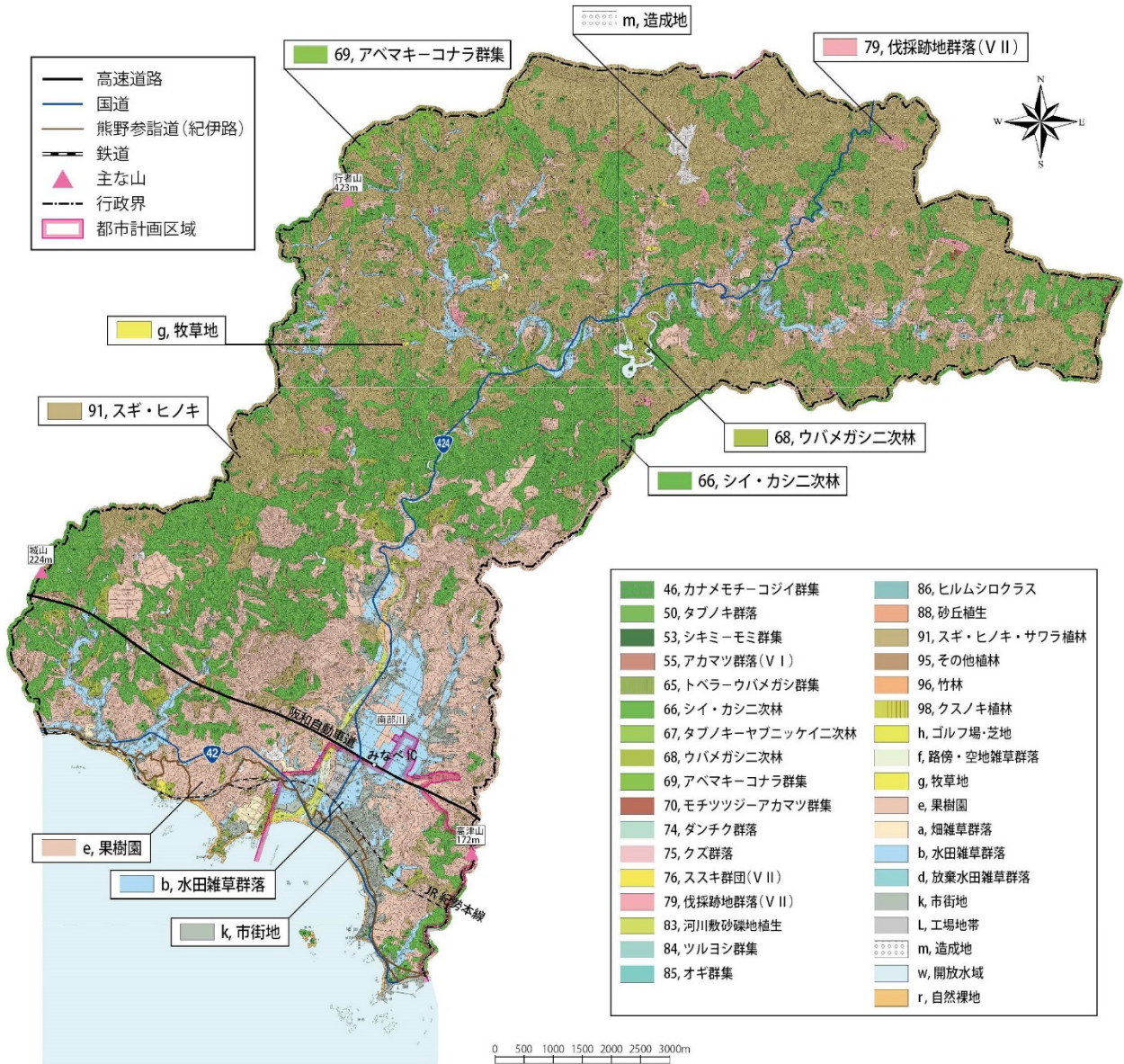
田	湿田・乾田・沼田・蓮田及び田	鉄道	鉄道・操車場などで、面的にとらえられるもの
その他の農用地	麦・陸稲・野菜・草地・芝地・りんご・梨・桃・ブドウ・茶・桐・はぜ・こうぞ・しゆる等を栽培する土地	その他の用地	運動競技場、空港、競馬場・野球場・学校港湾地区・人工造成地の空地等
森林	多年生植物の密生している地域	河川地及び沼泥	人工湖・自然湖・池・養魚場等で平水時に常に水を湛えているところ及び河川・河川区域の河川敷
荒地	しの地・荒地・がけ・岩・万年雪・湿地・採鉱地等で旧土地利用データが荒地	海浜	海岸に接する砂、れき、岩の区域
建物用地	住宅地・市街地等で建物が密集しているところ	海水域	隠頭岩、干潟、シーパースも海に含める
道路	道路などで、面的に捉えられるもの	ゴルフ場	ゴルフ場のゴルフコースの集まっている部分のフェアウェイ及びラフの外側と森林の境目を境界とする

資料：国土数値情報（土地利用詳細メッシュ 平成 28 年）

② 植生の状況

本町は、森林が約7割、農地が約2割を占めています。植生図を見ると、山間部では、アベマキ-コナラ群集、スギ・ヒノキが多く見られ、丘陵部では、果樹園が広がっています。また、南部川の河口部周辺では、水田雑草群落が見られ、南部地域では、一団の市街地を形成しています。

■ 植生図

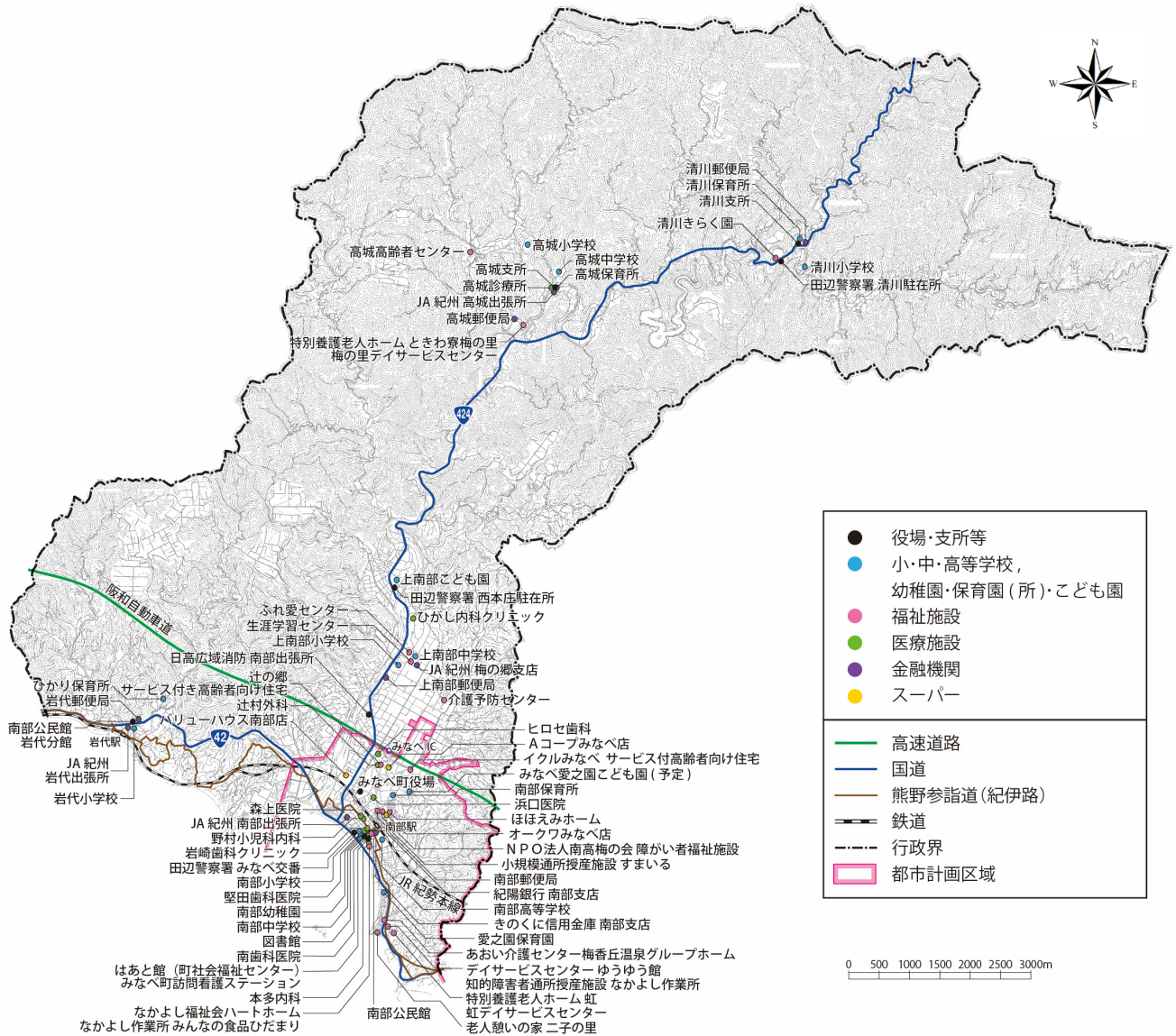


資料：植生調査（1/2.5万）第6-7回植生図（環境省）

③ 施設立地の状況

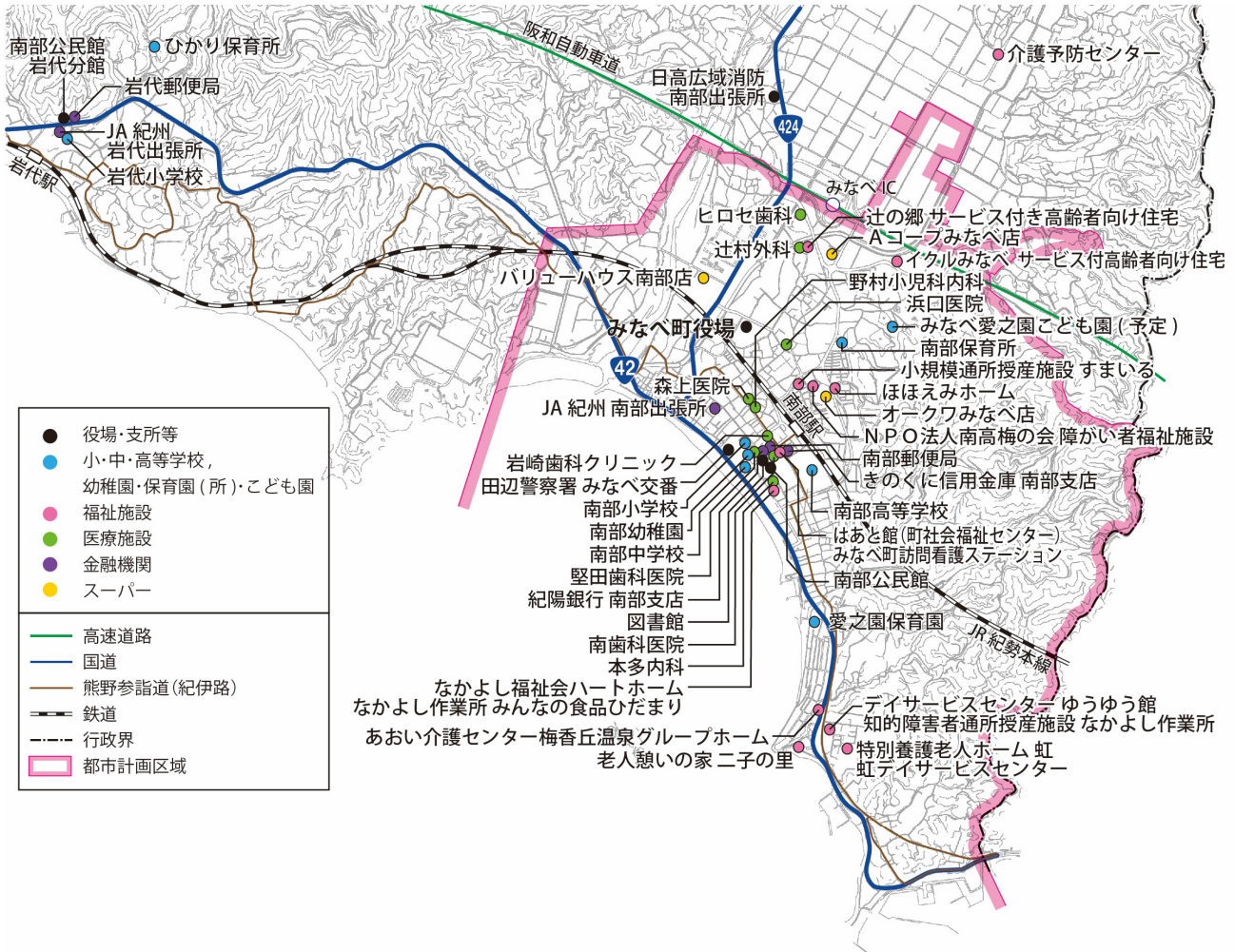
商業施設や公共公益施設などの生活利便施設は、南部中心部に集中して立地しています。また、寺社仏閣等の歴史・文化資源などは、海岸部、清川地域や高城地域の中心部に多く見られます。

■生活利便施設等状況図



資料：住宅地図等

(南部中心部拡大)



資料：住宅地図等

④ 公営住宅の状況

町内の公営住宅は、町営 204 戸、県営 18 戸あり、老朽化に伴う定期的な改善や改修などの維持管理を進めています。

■公営住宅等の状況

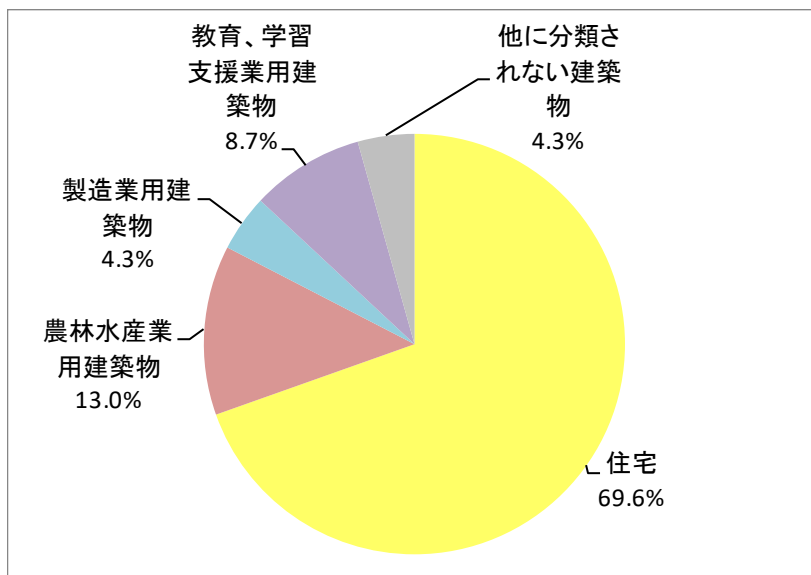
設置者	総戸数	簡易耐火平屋	簡易耐火構造2階	準耐火構造2階	木造平屋	木造2階
みなべ町	204	4	65	32	46	57
和歌山県	18	0	18	0	0	0
合計	222	4	83	32	46	57

資料：建設課

⑤ 住宅の新設状況

新設戸数は、年度によってばらつきはあるものの、毎年 20～50 戸程度で推移しており、住宅の新設割合が最も高く、毎年 6 割以上を占めています。

■用途別新設建築物の割合（平成 30 年度）



資料：建築着工統計調査（平成 30 年度）

■用途別新設建築物の推移

用途	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
住宅	44	28	40	30	28	39	35	16
農林水産業用建築物	3	3	1	4	2	3	1	3
鉱業、採石業、砂利採取業、建設業用建築物		1		1				
製造業用建築物	3	2		1		1	1	1
電気・ガス・熱供給・水道業用建築物				1			1	
運輸業用建築物			1					
卸売業、小売業用建築物					2	2		
宿泊業、飲食サービス業用建築物				1				
教育、学習支援業用建築物	1		1	10	1			2
医療、福祉用建築物		2	1	0		1	1	
その他のサービス業用建築物		2	1	1	1	1		
公務用建築物	1	3	1					
他に分類されない建築物		2	2		2	1	2	1
合計	52	43	48	49	36	48	41	23

※年度

資料：建築着工統計調査

⑥ 空き家の状況

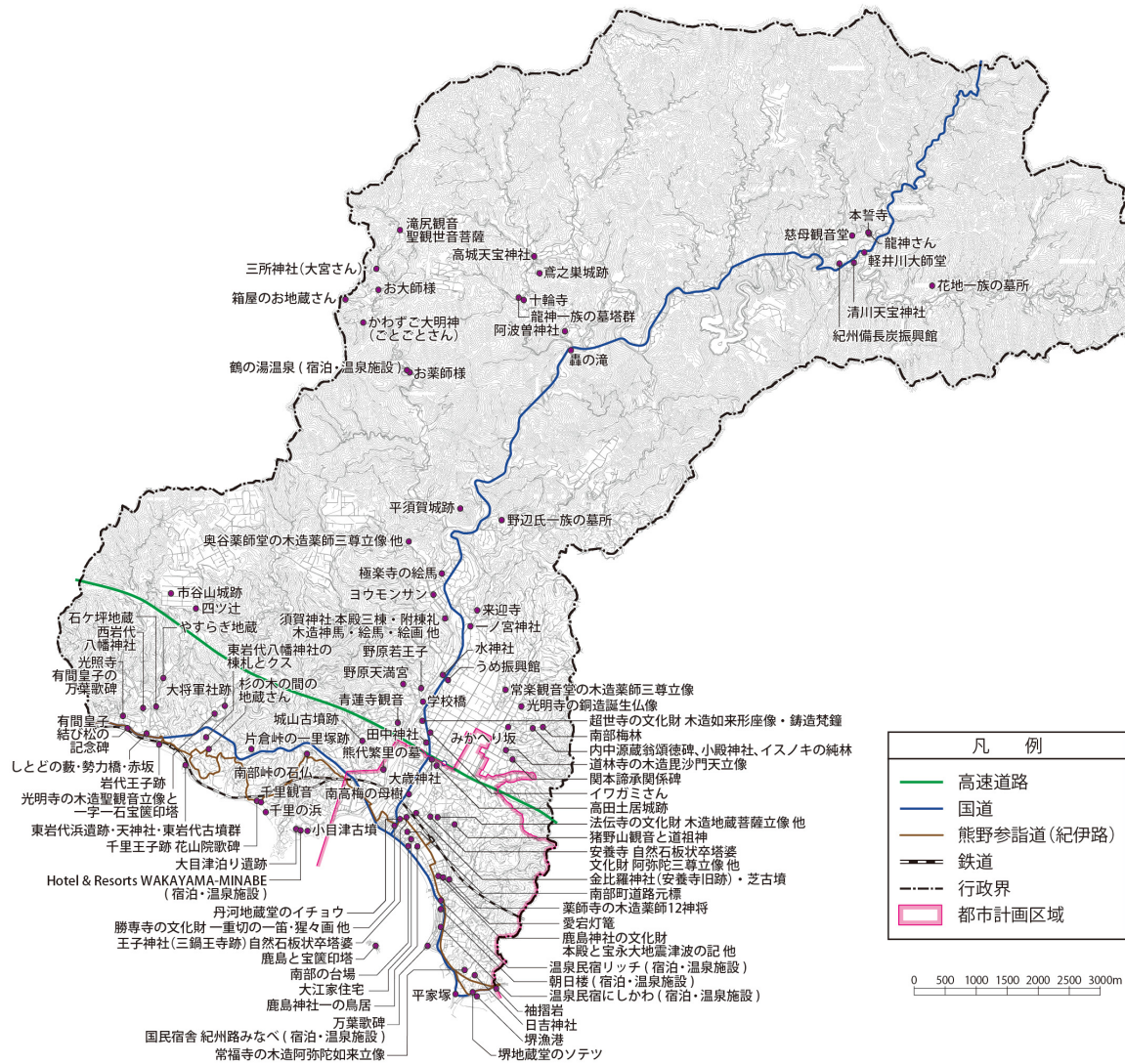
本町の空き家数は、約 300 件程度（平成 28 年みなべ町空き家軒数調査より）と見られ、人口減少に伴い、その数は増加傾向にあります。空き家対策については、その必要性などの検討が求められています。

(5) 地域資源

本町には、千里の浜、南部梅林、うめ振興館、紀州備長炭振興館、寺社仏閣など多くの地域資源が点在しています。

また、梅花が広がる丘陵地の美しい景観や鹿島を含む海岸沿いの夕日の景観など特徴的な景観を有しています。

■ 歴史・文化資源等状況図



資料：みなべ観光協会パンフレット、みなべ町文化財地図等

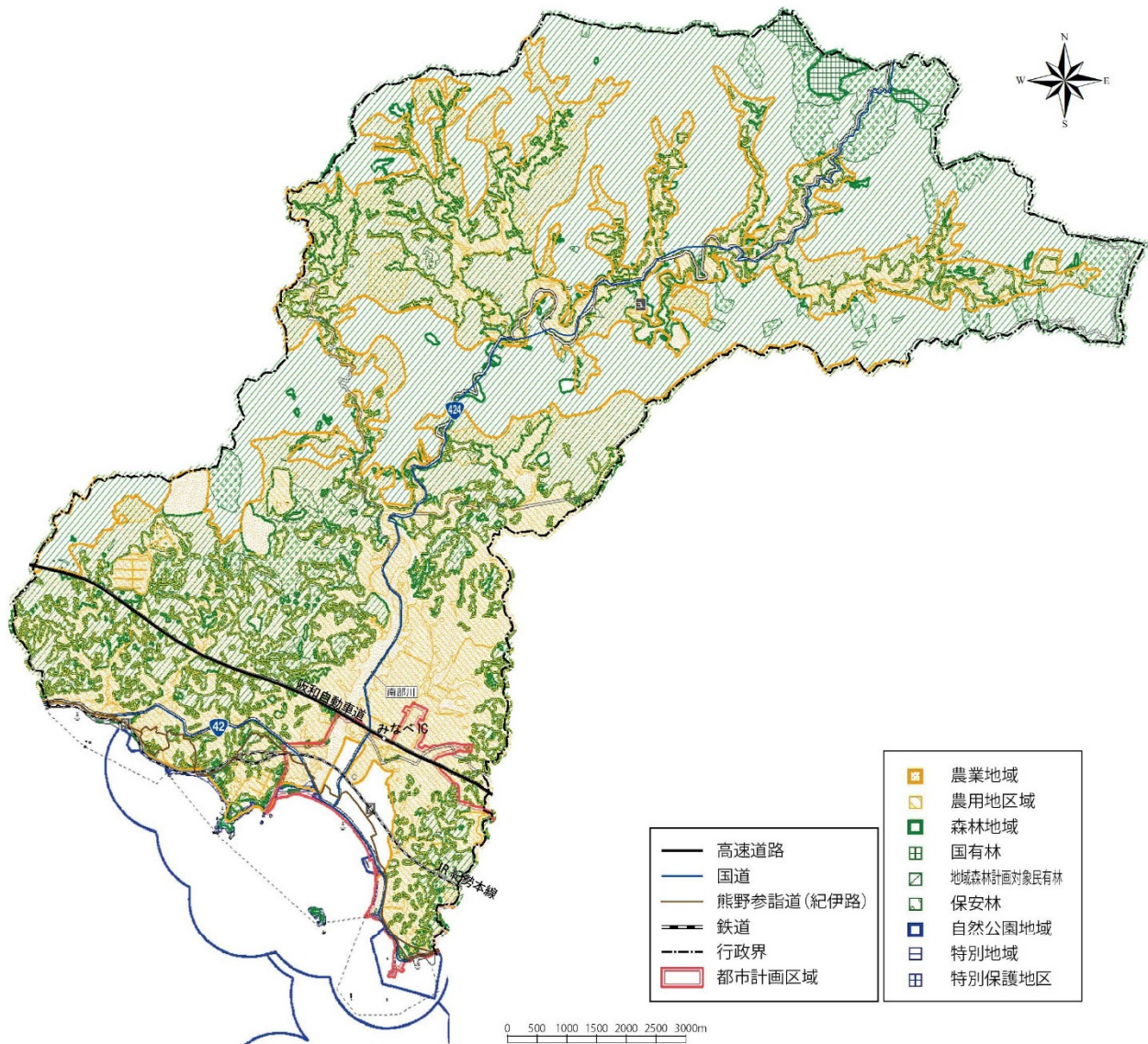
1.5. 都市計画等の状況

(1) 土地利用規制の状況

農地には、概ね農用地区域の指定が見られ、山間部には、地域森林計画対象民有林が指定されており、自然環境の保全が図られています。

また、千里の浜を含む海岸域は、自然公園地域（吉野熊野国立公園）に指定されています。

■法適用現況図（土地利用規制）



資料：土地利用基本計画図（国土交通省）

(2) 都市計画の状況

① 都市計画区域

南部都市計画区域は、みなべ町の市街地部 772ha が指定されており、みなべ町面積の 6.4%となっています。

■都市計画区域

都市計画 区域名称	都市計画区域		備考	
	面積 (ha)	法指定年月日	みなべ町面積 (ha)	町域面積に対する 都市計画区域の割合(%)
南部	772	S44.5.20	12,028	6.4

資料:和歌山県の都市政策行政、国土地理院

② 都市施設

都市計画決定されている施設として、道路、駅前広場、公園、市場、下水道（公共下水道、都市下水路）があります。道路は、一部、未整備区間も見られますが、駅前広場、公園及び市場は、整備が進み、供用が開始されています。

また、公共下水道の整備率は、96.6%、都市下水路の整備率は、91.7%となっています。

■都市施設

【道路】

区分	番号		路線名	総延長 (m)	整備済 (m)	未整備 (m)	整備率 (%)
	規模	一連 番号					
1	4	1	高規格幹線道路南部白浜線	2,250	2,250	—	100
3	5	1	北道埴田線	1,000	958	42	96
3	5	2	南道新庄線	950	—	950	0
3	5	3	南部停車場線	330	330	—	100
3	5	4	山手線	1,620	1,165	455	72
3	5	5	国道424号線	1,560	1,560	—	100
3	5	6	新庄芝崎線	1,020	1,020	—	100
合計				8,730	7,283	1,447	83

※整備済:改良済+概成済(計画幅員の2/3以上整備し、一般供用の延長) 資料:都市計画基礎調査

【駅前広場】

駅名	鉄道名	計画面積 (㎡)	供画面積 (㎡)	都市計画道路名
南部駅	JR紀勢本線	1,900	1,512	3・5・2 南部停車場線

資料:和歌山県の都市計画2017

【公園（街区公園）】

番号			名称	面積 (ha)	開設面積 (ha)	未整備 (m)	整備率 (%)
区分	規模	一連 番号					
2	2	1	埴田公園	0.07	0.07	—	100
2	2	2	片町公園	0.06	0.06	—	100
合計				0.13	0.13	—	100

資料:都市計画基礎調査

【市場】

名称	面積(ha)		整備率 (%)	施設能力 (t/日)
	計画	供用		
南部町漁業協同組合 地方卸売市場	2.8	2.8	100	86

資料:和歌山県の都市計画2017

【公共下水道】

都市計画 区域名	計画人口 (人)	計画				供用				整備率 (%)
		処理区域 (ha)	下水管渠 (m)	処理場		処理区域 (ha)	下水管渠 (m)	処理場		
				箇所数	面積			箇所数	面積	
南部	5,340	204	67,713	1	11,100	197	66,773	1	11,100	96.6

※令和3年3月時点

資料:令和元年度 みなべ町公共下水道事業計画

【都市下水路】

都市計画 区域名	計画		供用		整備率 (%)
	処理区域 (ha)	管渠延長 (m)	処理区域 (ha)	下水管渠 (m)	
南部	145	3,360	133	3,110	91.7

資料:和歌山県の都市計画2017

1.6. 主要施策の状況

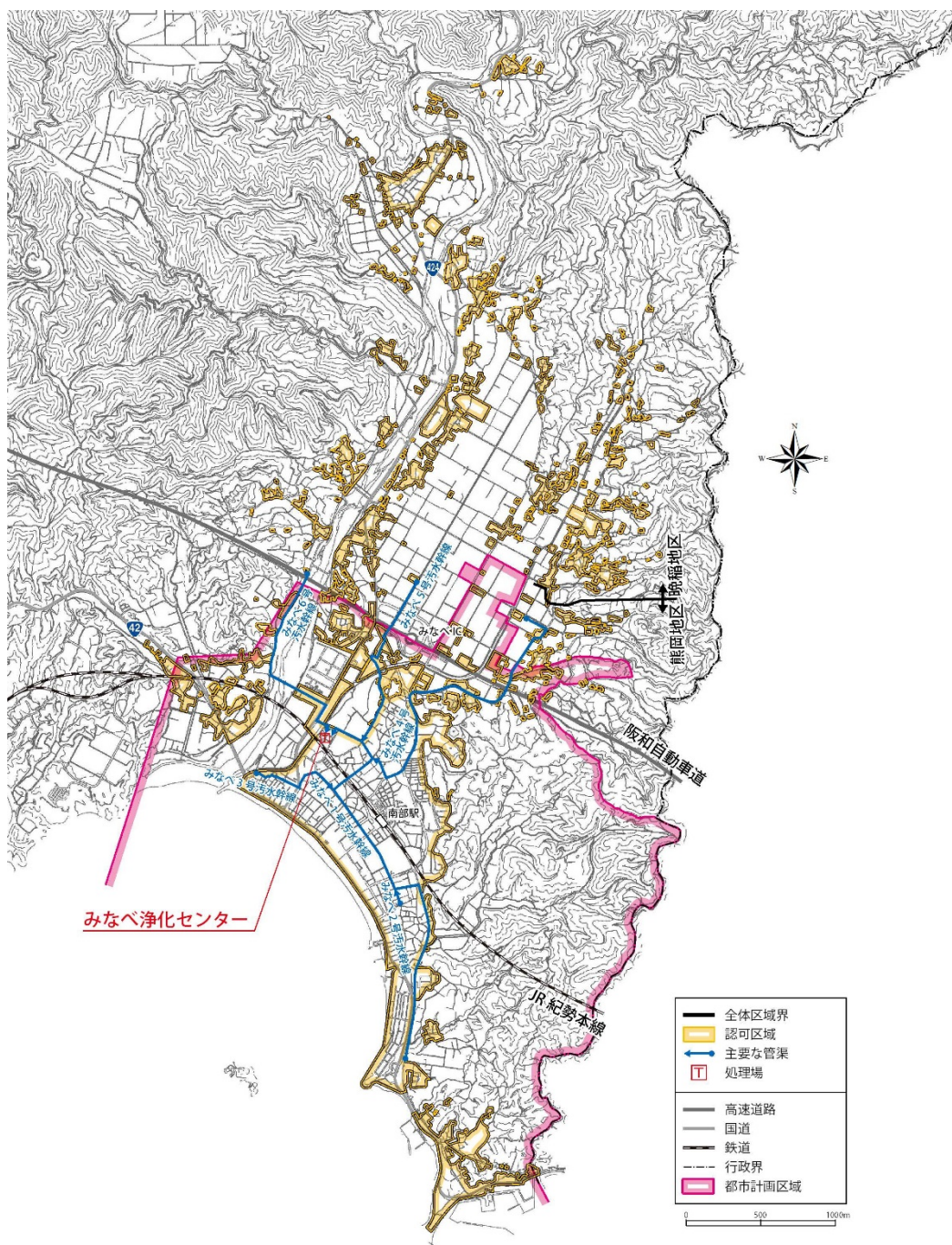
現在、みなべ町内において事業中の都市計画に関する事業を以下に整理します。

(1) 事業中の都市計画に関する事業

① 公共下水道

事業概要	公共下水道は、農業集落排水5地区との統合を行い、全体計画区域面積288.4ha、事業認可区域面積288.4haとなりました。未普及地区については早期の完成を目指しています。
事業期間	平成14年10月（一部供用開始）～

■公共下水道の状況図

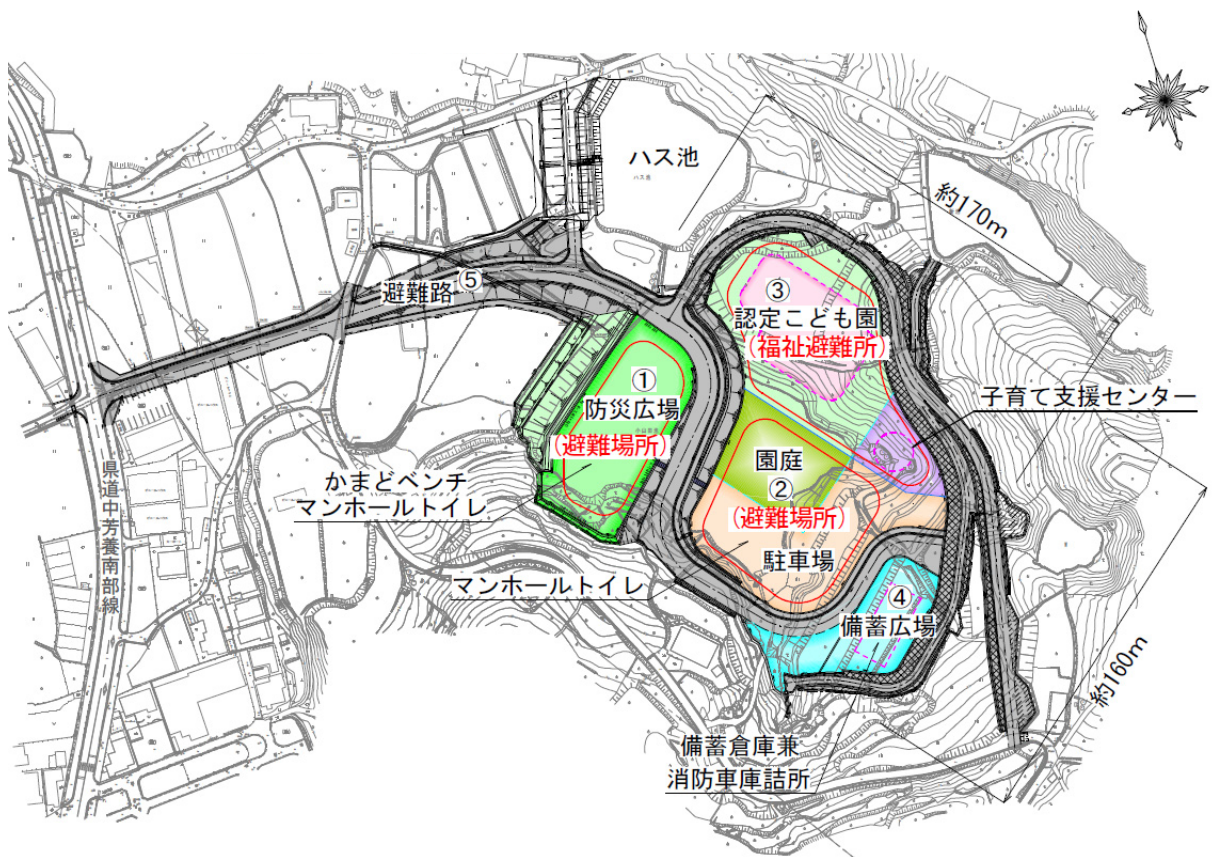


資料：庁内資料

② 防災拠点整備

<p>事業概要</p>	<p>南海トラフ巨大地震による被害の大きさが危惧されている中、町民の生命と安全安心を確保するため、東吉田・南道地において、津波避難施設（防災広場、消防車庫・備蓄倉庫、災害時避難場所）や避難路等の整備を行っています。</p>
<p>事業期間</p>	<p>平成 28 年度～平成 31 年度</p>

■防災拠点整備の概要



資料：庁内資料（防災拠点整備計画図）

2. 住民意向

2.1. 都市計画マスタープラン策定におけるまちづくりアンケート

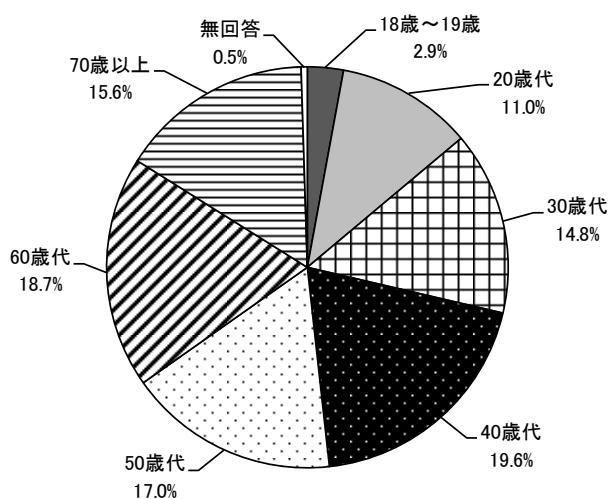
令和元年9～10月に実施した「都市計画マスタープラン策定におけるまちづくりアンケート」の結果を基に、住民意向として整理します。

(1) 調査概要

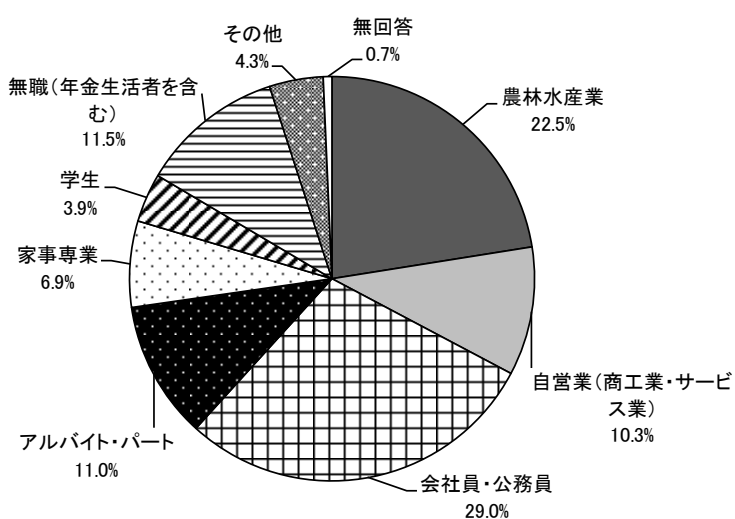
調査対象	18歳以上のみなべ町民1,500人（住民基本台帳より無作為抽出）
調査期間	令和元年9月27日（金）～令和元年10月15日（火）
回収率	38.9%（583票／1,500票）
主な調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・居留意向、将来イメージについて ・土地の利用について（課題・問題、方向性、必要な機能など） ・都市施設の整備について（道路、公園・緑地、その他都市施設など） ・災害に対する備え、景観について ・まちづくりへの住民参加について

(2) 調査結果（属性）

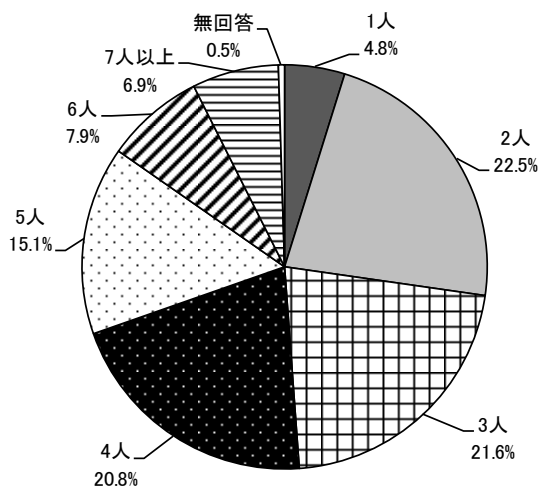
【年齢】



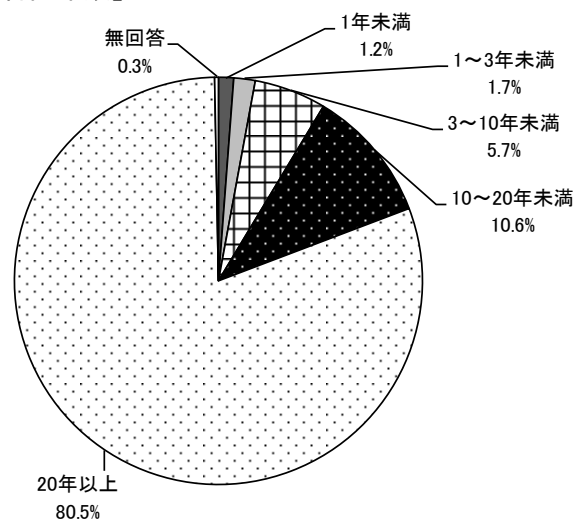
【職業】



【世帯人員】



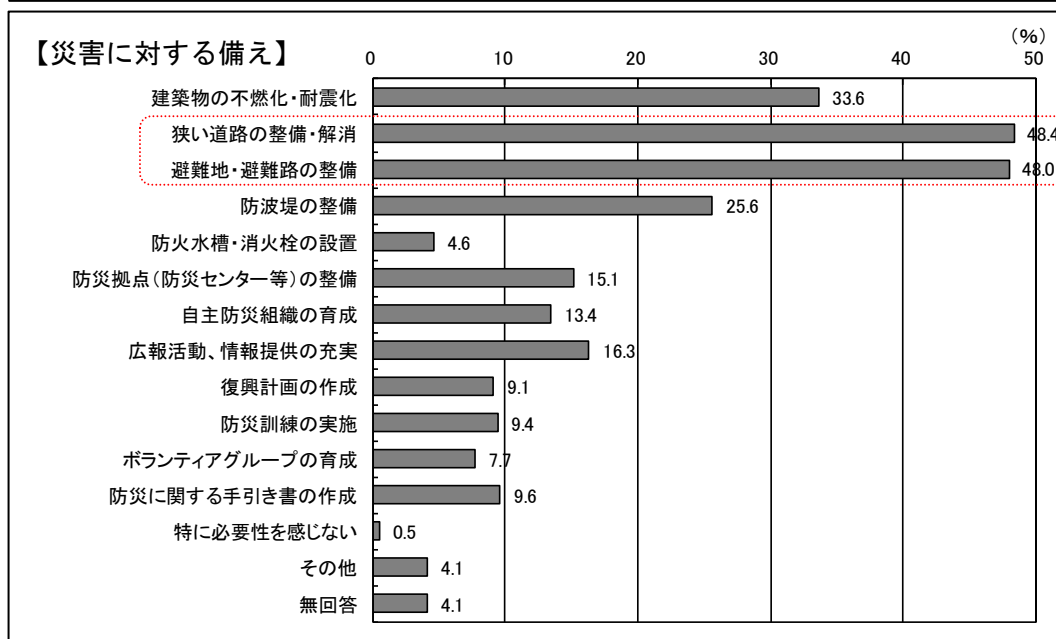
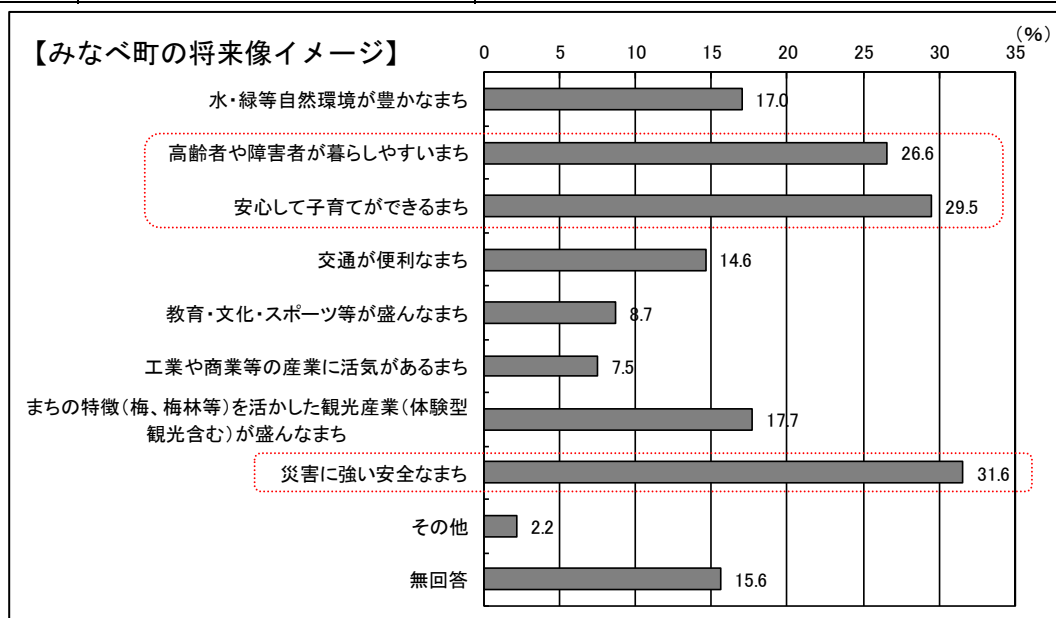
【居住年数】



(3) 調査結果 (意向の要旨)

項目		意識・意向
居住意向	今後の居住予定	・ 7割以上の方が今後も町内に住み続けることを望まれています。
	住み続けたい理由	・ 住み続けたい理由は、「先祖からの土地だから」が最も多い。
	転居したい理由	・ 転居したい理由は、「日常生活に不便だから」が最も多い。
みなべ町の将来像	イメージ	・ みなべ町では、災害に強い安全なまちが望まれています。
地域の将来像	イメージ	・ 一戸建ての住宅を中心とした静かな住宅地などの居住地域が望まれています。
	特に望むこと	・ 住んでいる地域では、防火・防災対策、道路整備、公共交通の充実、自然環境や景観の保全が望まれています。
土地利用	課題や問題点	・ 空き家や荒れ地に課題や問題を感じている人が多いです。
	町全体のまちづくりの方向性	・ 災害の危険性の少ない地域を中心としたまちづくりや各地域とも均等に整備を行うまちづくりが望まれています。
	総合的な土地の利用方法	・ 町域全体としての土地利用の誘導・制限が必要であると考えられています。
	必要な施設や機能	・ 医療施設、日常生活に必要な店舗・サービス施設が必要であると望まれています。
	農地の利用について望むこと	・ 優良農地の保全、小規模農地や耕作放棄地は、市民農園や体験学習の場等への活用が望まれています。
	山林・森林について望むこと	・ 健全な森林づくりのための整備・保全することを望んでいます。
都市施設の整備	道路整備や交通のあり方	(みなべ町) 狭い道路の多い地区の道路整備が望まれています。 (居住地域) 夜間の犯罪や事故を防ぐための防犯灯・街灯の整備が望まれています。
	公園・緑地等の整備	(みなべ町) 都市防災の避難地となる大きな公園の整備が望まれています。 (居住地域) 日常の憩いのための身近な広場や公園の整備が望まれています。
	その他の都市施設の整備	(みなべ町) 診療所・病院やスポーツ・レクリエーション施設の充実が望まれています。 (居住地域) 診療所・病院の充実が望まれています。

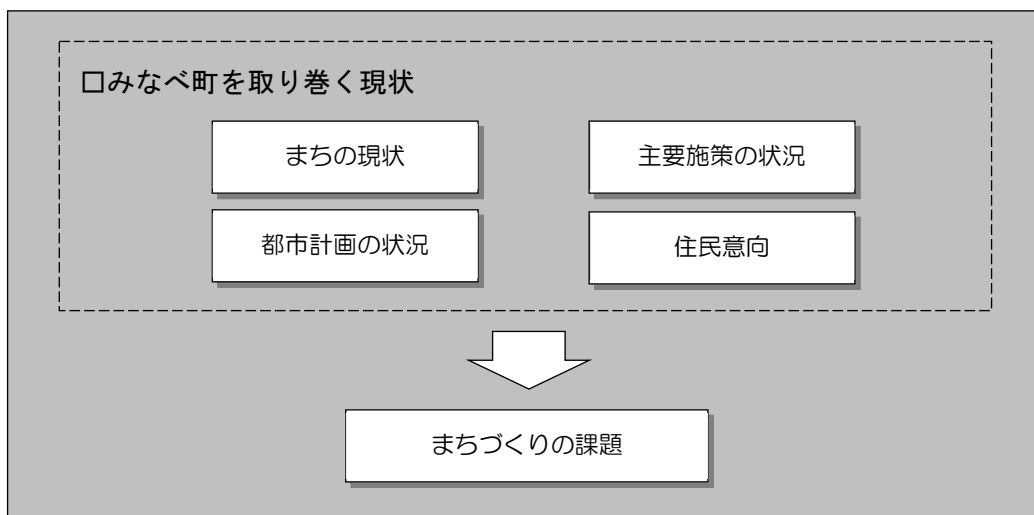
項目		意識・意向
災害に対する備え		・避難地・避難路の整備、狭い道路の整備・解消を望まれています。
景観	景観に対する取り組み	・森林や丘陵、水辺等の自然景観を残し、田園風景を守ることが重要だと考えられています。
	好きな景観	・第1位：南部梅林、第2位：千里の浜・千里海岸(ウミガメの産卵場所)、第3位：梅林(梅の花・梅畑など) ・町特産の梅に関するもの、海や海岸線などの自然景観が多くなっています。
まちづくりへの参加	都市計画について	・都市計画については、約7割の方が知らないと回答されています。
	コミュニティ活動への参加	・防災活動、交流活動、維持管理活動への参加が多くなっていますが、特に参加していない人も多いです。
	まちづくりへの参加	・まちづくりへの参加については、できれば参加したいが最も多くなっています。



3. まちづくりの課題

まちづくりの課題については、都市計画に関連する内容にとどまらず、広くまちづくり全般の課題として整理します。

まちの現状から見た特性を抽出し、意向調査（都市計画マスタープラン策定におけるアンケート調査）を踏まえ、まちづくりの課題として整理します。



項目	まちの現況からみた特性	住民意向	まちづくりの課題
位置・沿革	<ul style="list-style-type: none"> 和歌山県の海岸線のほぼ中央に位置 紀南地域の中心都市である田辺市に隣接 平成16年に南部町と南部川村が合併し、みなべ町誕生 	<p>一</p>	<ul style="list-style-type: none"> 田辺市と一体となった広域的なまちづくり 旧南部町と旧南部川村の連携強化と地域個性の創出
地勢・気候 自然災害等	<ul style="list-style-type: none"> 【丘陵部】日本一のブランドを誇る「南高梅」の栽培が盛ん 【山間部】炭の最高級品である「紀州備長炭」の生産が盛ん 【海岸部】温泉施設があり、海洋レジャーや漁業も盛ん、千里の浜はアカウミガメの産卵地としても有名 温暖で雨の降りやすい多雨地帯 今後発生が予測される南海トラフの巨大地震による浸水想定区域が市街地にみられる 	<ul style="list-style-type: none"> 「災害に強いまち」を望む 「防火・防災対策」を望む 災害に対する備えとして、「狭い道路の整備・解消」「避難地・避難路の整備」が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な地勢特性（海・山・川）の維持保全 ハード・ソフト両面からの防災対策
人口・世帯	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少、少子・高齢化が進むと予測される 世帯数は、増加傾向にある 田辺市との結びつきが強い 第1次、第2次産業の就業人口が減少傾向にある 生徒数（小中学校）は、減少傾向にある 外国人人口は増加傾向にある 	<ul style="list-style-type: none"> 7割以上が今後も住み続けたい 「安心して子育てができるまち」を望む 「高齢者や障害者が暮らしやすいまち」を望む 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少に対応した持続可能なまちづくり 少子・高齢化社会に対応した暮らしやすいまちづくり 若者が帰ってきやすい環境づくり すべての人が生活しやすいユニバーサルデザイン
産業	<ul style="list-style-type: none"> 【商業】年間販売額、従業員数、事業所数ともに、大きな変化なし 【工業】工業出荷額等は、減少傾向から平成29年に増加に転じる 【農業】農家数、農業従事者は減少傾向にある 【水産業】総数92戸のうち、個人85戸、共同経営7戸 【観光】宿泊客より日帰客が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 「観光産業（体験型観光含む）が盛んなまち」を望む 	<ul style="list-style-type: none"> 企業等の誘致、地場産業の活性化 特徴ある地域資源を活かした観光産業の活性化 地域の特徴を活かした体験型観光など都市と農山漁村との交流促進
交通・道路	<ul style="list-style-type: none"> 南北に阪和自動車道、国道42号、東西に国道424号が走る 都市計画道路の整備率は高いが、未整備路線も残る 阪和自動車道に平行して、南北にJR紀勢本線が走る 南部駅、岩代駅を有する コミュニティバスが地域間を運行 	<ul style="list-style-type: none"> 町内「狭い道路の多い地区の道路整備」「歩行者や自転車の安全な通行のための道路整備（歩道の設置等）」を望む 地域「防犯灯・街灯の整備」を望む 	<ul style="list-style-type: none"> 幹線道路等のネットワーク強化 公共交通機関の維持と機能の充実 地域の実情に応じた生活道路の整備 防犯灯・街灯など安全・安心な地域環境整備
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> 南部地域の市街地に、生活利便施設が多く点在している 海岸部の市街地以外は、田や森林等の自然的土地利用が大半 公営住宅の老朽化 建築物の新設戸数は年間数十戸程度と少なく、住宅が6割以上 空き家・空き地が増加 	<ul style="list-style-type: none"> 「病院や診療所などの医療施設」を望む 「日常生活に必要な店舗・サービス施設」を望む 「災害の危険性の少ない地域を中心としたまちづくり」「地域格差のないまちづくり」を望む 「町域全体の土地利用の誘導・制限検討」が必要 「優良農地の保全、小規模農地や耕作放棄地は、市民農園や体験学習の場等に活用」を望む 「健全な森林づくりのための整備・保全」を望む 「空き家・荒れ地の増加」が課題 	<ul style="list-style-type: none"> 適正な公共施設の配置 適正な土地利用制限による規制・誘導 優良農地及び森林の保全と活用 公営住宅の定期的な改善や改修 空き家・空き地など遊休地の利活用
地域資源	<ul style="list-style-type: none"> 千里の浜、南部梅林、うめ振興館、紀州備長炭振興館などの地域資源 梅花が広がる丘陵地の美しい景観、鹿島を含む海岸沿いの夕日の景観など特徴的な景観 	<ul style="list-style-type: none"> 好きな景観：南部梅林、千里の浜・千里海岸（ウミガメの産卵場所）、梅林（梅の花、花畑など） 	<ul style="list-style-type: none"> 特徴ある地域資源の保全 伝統文化の保存の仕組みと継承する人材の育成 魅力ある景観の保全
その他 都市施設	<ul style="list-style-type: none"> 町域の6.4%が都市計画区域に指定 公共下水道事業が進められている 防災拠点整備が進められている 	<ul style="list-style-type: none"> 「都市防災の避難地となる大きな公園の整備」を望む 「その他の都市施設として「診療所・病院」「スポーツ・レクリエーション施設」を望む 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な都市施設の整備
まちづくりへの参加	<p>一</p>	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画については、約7割が知らない（ほとんど知らない・あまり知らないの合計） 「防災活動に参加」が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画等まちづくり情報の提供 協働のまちづくりの推進 まちづくりに参加する機会の創出